京城日報

發行所 京城本町通一丁目 合資會社京城日報社
發行兼編輯人 奥[illegible]
印刷人 小川三之介

九月十五日夕刊 (朝夕併せて八頁)

烏蘇里方面戰報

△黒龍州 敵撃攘計畫
＝山田部隊の西進＝

陸軍省公表＝大井第十二師團長は黒龍州の敵を撃攘すべく山田少將の部隊を十二日を西進せしめたり米軍及支那軍の一部も我軍と行動を共にす(東京電報)

△山田部隊と策應

野戰工兵中佐指揮の鹵獲砲艦數隻は黒龍江を遡り山田部隊と策應す(東京電報)

△我航空隊活動
黒龍江鐵道沿線偵察

飛行隊は活動を開始し十一日黒龍江鐵道沿線の敵情を偵察せり(東京電報)

△一部隊進軍繼續

浦鹽電＝十日ハバロフスクに達せる第十二師團司令部は更に一部隊に對し前進を命じ頻りに進軍を繼續しつゝあり(東京電報)

滿洲里方面戰報

△ネルチンスク進入

北滿方面の藤井枝隊騎兵部隊前進隊は子ルチンスク(赤塔の東方六百露里)に進入せり(東京電報)

◇藤井中將の告示
露人に對し好感情を與ふ

滿洲里電＝藤井第七師團長は七日附にて十二日哈爾賓市中に漢露兩文の告示を爲せるが其要旨左の如し

日本帝國は過激派及び獨墺俘虜を驅逐せん爲め兵を出せるも露國の内政には寸毫干渉の意思無し中傷的謠言に迷はされ動搖する勿れ

右告示文は露人に對し好感情を與へたり(東京特電)

◇北滿派遣支那軍

北京電＝派遣軍に編入して北滿洲に派遣すべき奉天軍は河南省正陽洛陽信陽にある二個旅團にして第一旅團長には王永泉第二旅團長には鮑[illegible]山氏任命されたり支那政府は該軍隊を以て北滿鐵道沿線警備の件につき目下日本政府と交渉中なり(東京電報)

◇獨軍根據地撤退
前線根據地トールより撤退

佛國官報公報に據れば獨軍は秩序的に佛國に於る最も重要なる前線根據地トールより撤退せるが此の根據地の設備即ち前線に於ける大兵器廠等の移送の爲約十日間を要せり(東京電報)

◇獨兵二百五十萬

ヘーグ電＝佛國公報に曰く敵は八月八日以來百七個師團を以て戰ひたるがその内三個師團は徒歩騎兵師團なり又右師團の内三十二師團は二回戰鬪に參加したり英軍の觀察によればソンム河の南方にある獨軍は約四十二個師團にしてその一個師團は約八千の歩兵より成る故にその計算を以てすれば瑞西國境より北海岸に至る戰線上には百廿五萬の獨兵存在する譯なり而して東西の戰場にある獨軍の全兵力は恐らく二百五十萬内外なるべしその東方部隊は兵員不足せるを以て東部より西部戰場に向つて派遣し得る新師團あるべしとも信ぜられず(倫敦電報)

◇獨西潜艇戰解決

マドリツト來電＝獨逸潜航艇戰に關する獨西間の紛議は滿足なる解決點に到著したり西班牙内閣は十一日右に關し閣議を開くべしと傳へらる(桑港電報)

◇寺内元帥參内

寺内首相は十四日午後一時四十分元帥の資格にて參内同二時過ぎ退出せり(東京電報)

◇日本銀行 利子引上

日本銀行利子二厘引上げ十六日より實施すべし(十四日午後四時半東京發至急電報)

○鹵獲艦の處分
結氷と艦艇引揚

今回鹵獲したる黒龍江艦隊の處分に就ては陸軍側と海軍より急派したる將卒との間に近々何等かの具體的處分が講ぜらるゝ筈なるが該鹵獲艦の如何なるものなりや詳細に判明せざるが若し一千噸足らずの使用に堪ふべき砲艦ならばブラゴエ方面の敵の出方如何によりて協同し砲戰を交ふべく或は小砲艦等も軍需品輸送等の爲めに使用するに至るべし但冬期は黒龍江一帶に亘りて結氷し橇を用ふれば立派なる通路となるが如き有樣にて十月央頃迄には何處へか引揚げざるべからず一方浦鹽以北の露領沿海州沿岸も早晩結氷するに至るべく目下間宮海峽方面にては浮標の間を潜りて我艦艇は航行し居るが此各方面は冬季に差しかゝれば時化甚だしく黒龍江より流氷來りて浮標も流失するに至るといふ浦鹽にては濃氷の時より碎氷船を以て氷を碎き居れば汽船等の通過も可能なる由なるがニコライウスク及び間宮海峽は絶對に航行不能となるを以て同方面派遣の我艦艇は今月末頃迄には引き揚ぐるの要あり江擣敵を絶れば我海軍の仕事も一段落を告ぐべきを以て一應日本に引揚ぐるに至るべし尚浦港在泊中の帝國艦艇は聯合國の軍艦と共に八市の占領及び八市二市間の黒龍江係あれど場合によりては適當の時機に沿海州派遣艦艇同樣引揚ぐるに至るやも知れずと(東京)

○浦鹽形勢眞相
夏秋龜一氏談(三)

故に民心漸く茲に一變して排米に傾いたのであらうか其は米國から

△過激派に秋波

を送つたからである是れは現在の露西亞で有力なる智識階級の人々の言ふて居るところである斯く迄親日熱の旺盛になつた今日聊かにても對露政策に過りあらば日本は忽ち哈爾賓に於ける米國の二の舞を演出するであらう而して浦鹽に於ける聯合與國は擧つて社會黨を援助してはゐまいか尤も米國は自國の民主々義と同一視して露西亞の社會黨を援助してゐるのかも知れぬ單に露人援助といふ目的の下に上中下層の種類を擇ばず有識無識の何たるを問はず徒らにデモクラシーとアンチデモクラシーとの其の名に拘泥して露人の不倶戴天の敵たる

△猶太人の多數

を占めてゐる而も全國民の憎しみとせる過激派に近いデモクラシーの西伯利政府を援助してゐるのではあるまいか聯合與國が此の社會黨を援けてホルワット即ち非社會黨を壓迫してゐるといふ事は歷々として十目の見る處皆同一ではあるまいか假令目的は善くとも其の方法に於て誤りあらば折角の心盡しも水の泡に歸すのみならず却つて反感を招くであらう、元來露西亞に於る國民の八割五分といふものは農民であつて、後の一割五分は勞働者及び富豪、智識階である、そこで其の一割五分の内から富豪及び智識階級のみを選擇すると僅五パーセントか十パーセントにも足らない僅か

△十パーセント

にも足らない數でも智識階級は知識階級である何事を論ずるにも是れ等の人々を相手にせねばならぬさりとて大多數とはいへ愚民を相手に何事の判斷が出來やう彼等愚民は衣食の滿足を充たす上に於て國家の何物たるを考慮するものでない目下の急は是れ等の智識階級の人々に給へ彼のケレンスキーは是れ等民即ち愚民を以て組織せられたる社會黨を援けて居るたが一旦天下の覇權を握つた後で自分が是れ等の非なるを悟つた併し其時は遲かつたさすれば常に謀る上に於ても是非共智識階級を相手とせねばならぬ是非智識階級に於て組織してゐる非社會黨即ち立憲民主黨を中堅とせるホルワットを壓迫するは

△其策を得た者

ではあるまい聯合與國の政策は此の點に於て大に誤つてゐるまいか幸ひにして我政府の政策は斯かる誤謬のない事を信ずる要するに萬事は行易く一將は得難して僅の智識階級こそ即ち一將であらう是を以て結論として置く(東京支局・完)

○日銀の金利引上
金利引上の原因及影響如何＝財界一層緊縮せん

日本銀行の公定割引歩合は昨年三月以來最低日歩一錢四厘に据ゑ置けるが別項東京電報の如く來る十六日より

△二厘方の引上

實施を發したりと云ふ右は昨年來兌換券の膨脹著しく最近に於ては八億圓を超え居るの状況にあり如斯通貨の膨脹が或程度まで物價の騰貴を促し信用の膨大を招き事業の勃興を生み投機の流行を來す等種々の影響を國民經濟上に及ぼす事は掩ふべからざる事實に付通貨を適當に縮少してその惡影響を若干にても緩和するは國民經濟上緊切の處置と曰はざるべからずこの説漸次有力となり來りし折柄あり加ふるに最近京阪金融市場に於ける割引歩合は最低一錢五厘五毛を唱へ

△預金利子

さへ爭奪熾烈しき結果縮まれる金高に對しては年六分(乃ち約日歩一錢六厘四毛)以上を附する有樣にて其間に可なりの逆鞘を示せるより各銀行の日銀に對する資金の融通申込は漸次多きを致し乃ち日銀の低率なる金利が兌換券膨脹の一原因を爲せりと稱するも大なる誤りなきに似たり尤も日銀貸出高四億七千萬圓中の大部分は爲替資金として特殊銀行たる正金鮮銀を主とし融通されしものにて市中銀行とは何等の關係なく而して多くの關係なし故に日銀の爲替資金供給の方針にして改まらざる限り二厘程の公定

△割引歩合

を引上ぐるも之れによりて急激に兌換券を收縮せしむる事は不可能なれども要するに日銀の低率なる金利が自からその貸出を多くし直接に兌換券増發の原因を爲しつゝありと識られ居る以上其金利を引上げて貸出に制限を加ふるは此際必要の處置と云ひ得るに似たりこれ日銀當局が金利引上の英斷に出でし理由ならん

▼引上影響如何

日銀金利引上の影響如何と云ふに其の爲替資金融通方針の如何に變改せらるべきやの知なき今日貿易界に就ては俄に論じ難きも要するに市中金利の二三厘方昂騰するは當然なるべく急いで事業界の受くべき不利の影響は免れ難からん唯吾が事業界は

△戰亂以來

相當の基礎を築き實力を張れるに付金利二厘の引上げがその前途の經營上に大問題を惹起すべしとは信ぜられざれど自然新事業の手控へを生ずべく基礎薄弱なる企業は相當淘汰の運命に遭遇するもあらん又前述の如く金利の引上が此際直ちに通貨の收縮を來すべしとは思惟されざるに付從つて物價の低落を誘致するならんとは信ぜられざれど

然かも物價暴騰の氣勢は或る程度まで殺がるべく

政府の方針並に日銀の利上意圖は主にその邊に留けるに非ざるか若し夫れ株式界の如きは相當の惡影響を免れ難かるべく結局財界は一層緊縮傾向を來すならん

▼鮮銀利上觀測

日銀利上と同時に鮮滿の中央銀行たる鮮銀も貸出利上は如何と云ふに鮮銀の同業銀行に對する割引率は日歩一錢八厘以上附當座貸越は日歩一錢九厘以上にして從來より日銀の金利に比し四厘方の上鞘に在り從つて日銀が今回二厘方の引上を爲すも鮮銀は二厘の差あるに付俄に鮮銀も日銀利上に伴ひ同率の引上をなすべしとは思はれざる節もあり現に昨年内地一流銀行が預金利子の引上げを行ひし際も鮮銀は動かざりし實例あれど金界の前途は相當の警戒を必要とし緊縮に傾くは大勢に付鮮銀にても恐らく利上の必要起り來るに非ずやとは某銀行家は語れり

○下水工事豫算
二百萬圓に更正

京城府の經營に係る京城下水工事は大正七年度以降五箇年繼續事業として總工費六十萬三千圓を計上し國庫より其の半額即ち三十萬一千五百圓を補助する事に決定し居りしも同工事は時局の影響を受け諸材料一般暴騰し既定豫算額にては到底工事の竣成を見る能はざるより本年度割當工費を使用するも何等用をなさゞる事となりたれば當事者は斯れが善後策として豫算金額の更正を必要とし當局並に總督府とも種々協議中の處今回愈々工費を増額するに決定し補助金額も頗る多額に上る模樣なるが現に大正八年度總督府豫算に計上せられたりと仄聞す而して右新規豫算額は約二百萬圓にして竣成期間は二箇年延長して七年繼續事業とする筈なるもの如く近く京城府にて協議會を開き種々打合せを爲すべし

◇支那政界分野

支那政局近況＝支那政界の状況を記せんに先づ北方新國會には安福倶樂部、研究會系、舊國派(交通系)研究會系、討論會系の四派あり現に登院せる議員四百卅六人(參議員百卅三人衆議院三百三人)内王揖唐氏を領袖とする安福倶樂部三百卅餘人、梁士詒、朱啓鈐兩氏の舊國派五十餘人、梁啓超、黄群、藍公武氏等を首領とする研究會及び討論會系合して

△五十二名と註せられ

安福派絶對多數を占居れるが如きも同派中には陰に研究討論兩會に款を通ずるもの廿餘人を下らず又舊國派即ち交通系が政界の裏面に有せる魔力侮る可からざるものあり交通系的色彩を帶有せる議員は各派を通じて之ありこの事なれば安福派の絶對多數なるものも實際に當つてはキヤスチング、ヴオートを握れる舊國派の鼻射を免れず此の關係が政局に作用して梁士詒氏を總理、周自齊氏を財政總長、朱啓鈐氏を内務總長とする内閣を現出せしむるに非ずやと推せられざるにもあらず次に廣東國會には益友社一名政余倶樂部(民黨系、王正廷、趙世鈺一派)最多數を占め次いでは岑春煊、李烈鈞兩氏を戴き李根源、褚輔成、章士釗、湯漪、楊永泰、李[illegible]、張耀曾氏等を領袖とせる政學會、

△孫洪伊兩氏を擁し

孫文、居正、馬君武、吳宗慈氏等に依つて率ゐらるゝ民友社の兩派あり此外研究會系の廿人を數ふる所なるが政學會は舊國民黨中の統一和黨系にして首席政務總裁たる岑春煊氏を戴き事ごとに孫派を彈ひ孤立無援の研究會系の之に追隨するあり加ふるに國民黨系の正系たる益友社(主として吳景濂氏一派)は陸榮廷氏の政治的勢力を背景とせる結果政學會と協同を破る可からざる關係あり此三派の連衝に對し國民黨系の急進派たる舊西南倶樂部と非常に急進派たる孫洪伊派の合體せる現在の民友社の勢力を以てしては到底廣東ならず茲に於て在上海の民黨首領孫文孫洪伊氏等は

△南方派隨一の根城たる

舊國會を動もすれば北方と妥協せんとする傾向ある政學會(孫洪伊氏の所謂民黨中の利祿派)の策謀に委するに忍びずとなし純民黨の獨立の運動を起したるものならんして醞釀中の新政黨と政學會との抗爭運動は議院間題を以て開始さるべしといへるが政學會に於て領袖圏内に在りし舊國民黨系の候補者褚輔成氏は有力者にして民友社側の候補者吳宗慈氏との競爭は矢張り諸氏の勝利に歸すべしと觀測せらる

○黒鉛生産高激減

内地に於ける黒鉛市場不振に伴ひ城津に於ても其生産高は逐次減退の趨勢を示し居れるが今客月中城津より移出したる黒鉛を見るに八百二袋(一百斤)にして價額二萬八千八百三十圓を示せり而して之を前年同期の千九百九十袋(百斤)五[illegible]四圓に對比し約五割の減退なり之れ前述の如く内地市場不振に因るものにして今後も用途の昂騰を見ざる限り如上の趨勢を持續するならんと思惟せらる

○群山白米仕向先

本年一月より七月に至る群山より各地に仕向けたる白米の移輸出數量は總計八萬三千七百七十四石にして此の内最も多きは大阪の六萬四千七百六十四石次は神戸の五千三百五十石等にして最も少きは三田尻の十三石なり今是れを各地別にすれば左の如し

大阪	六四、七六四石	神戸	五、三五〇
門司	二、〇四一	下關	一、四四三
八幡	一、一二〇	大牟田	九七五
長崎	一、三三〇	桐村	一二六
飯塚	一二六	直方	五三六
大分	九七	長谷	二七八
大連	二、三五四	宇山	六五
岡崎	一三六	三田尻	一三
元山	二、八一〇	東京	一、三五〇
計	八三、七七四		

○客月中元山貿易

客月中元山に於ける輸移出入貿易は總額三十五萬五千六百八十八圓にして前月の二十六萬三千三百二十四圓に比し實に九萬三千三百六十四圓の激増を示せり之れ主として前月は穿枯時期として出荷も捗々しからざりしが當月に入り漸く綿布類の增加と雜貨の荷動き順調となり今後も月を經るに隨ひて增加の見込みなり移入貿易は總額四十四萬三千七百三十圓にして前月の三十六萬六千八十八圓に對比し七萬七千百十二圓の增加を示せり之が原因は主として輸移出品增加と略同樣也

◎京畿 採種畓田事業

京畿道にては面の事業として郡の指導監督の下に本年度より重要作物たる水稻陸稻大豆大小麥の採種畓田を經營することゝし今秋播種すべき大小豆の外目下何れも經營中に屬し生育極めて良好なりと而して其生産品は面内を五區に分ち各面種子の交換を爲し面民は五ケ年毎に採種畓田交換を爲し以て優良品種の普及と種子の更新とを計るものなりと目下經營中のもの左の如し

種類	面積	品種
水稻採種畓	四百町歩	(早神力、穀良都、多摩錦、石白、日の出)
陸稻採種畓	十五町歩	(在來種)
大麥採種圃	二十町歩	(金子、オイラン、在來種)
大小麥	百町歩	(大麥、マンムート、小麥、カラフルユア)
大豆採種圃	二十四町歩	(在來種)

◎京畿 家畜市場状況

京畿道管内廣州郡外十七郡に於ける六月中の家畜市場状況を聞くに市場入場頭數牛四千四百五十五頭犢牛一千四百四十六頭賣買頭數牛八百五十二頭犢牛一千二百二十一頭賣買價格牛牛五萬三千二百二十二圓犢牛二萬八千五百九十六圓にして此が均價格は牛牛六十二圓五十錢犢牛二十八圓最高價格牛牛百七十二圓犢牛百圓最低價格牛牛二十八圓犢牛十六圓なりと

人事消息

▲岩倉二郎氏(東拓東京出張所主任) 十五日朝入京朝鮮ホテルへ
▲大淵不二三氏(安東縣上) 同上
▲中西鮮銀支配人 十五日朝退京

茶前酒後

◇十二箇所より焰炎として燃る、壞紅蓮見る〳〵大廈高樓を包み、壞崩の音響は、天地を震撼し、狂者の如く走る群民は、虎狼の如き兇暴なる刄に貫かれ、或は飛彈に斃れ、滿都宛然活地獄を現出する。戮せられたる露都の慘狀也。露人の破壞力は、遂に國家を破壞して、尚飽かず。歷史を破壞して更に意とせず、其破壞力の猛烈なるは、實にネロ以上也。羅馬を燔きしネロは、琴を彈じつゝ、其紅蓮を花と眺め、其慘狀を好下物として、ネロは破壞に一種の趣味を有したり、露人は何物をも有せず唯破壞の爲に破壞するのみ、醉狂者が、亂暴をなすと同じき也。然れども羅馬は、更に羅馬人に依て速かに再築せられたり。露都が、露人に依て、速かに再築せらるゝや否や。疑問は益々深くならざるを得ず

◇皇軍長驅、敵は風を望んで遁走し、我先遣隊は既に、ブラゴエチエンスクに達す。同所は實に、東部西伯利唯一の大都たり。然れども市齡未だ若く、僅に五十二年前の建設に係れり。即ち同市は千八百五十六年、時の東部西伯利總督アムール伯の、發見建設に始まる市名は同地鎭護の寺院、ヴラゴウエシチニー寺より、取りて命名せられたるもの。而して黒龍江をアムールと稱するも亦、都市建設者たる伯爵アムールの名を冠せるもの也。

◇時にして、治世及ばず、士氏の恐しき、兇賊時に出沒し、一個乾坤を異にす。彼の明治三十五年、露人が一萬の支那人を虐殺しアムールの江流爲に紅となりし一大悲慘事は、不朽に其暴虐を語る。斯て此の奇しき歷史を有せる都市は、又奇しき因緣に由つて、更に新しき歷史の一頁を作るに至れり。

◇慶長五年の今月今日は、家康が關ケ原に、西軍を破りたるの日也。千八百六十二年の今月今日は、ビスマークが普國宰相となりたるの日也。明治三十三年の今月今日は、故伊藤公が、政友會を組織せしの日也。三者何れも、其抱懷せし經綸の第一日也。東西古今を異にするも月日の同じきは、之亦奇しき感あるに非ずや。而して殊に家康、ビスマーク、伊藤公なるに於て、更に一層の興味を有す。

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城 朝鮮銀行
電話 [illegible] 振替貯金口座 京城[illegible]

支店 東京、大阪、神戸、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、大連、奉天、長春、開原、四平街、旅順、營口、哈爾賓、傅家甸、龍井村、鄭家屯、上海
出張所 [illegible]
右ノ外内外主要ノ地ニ爲替取引先有之

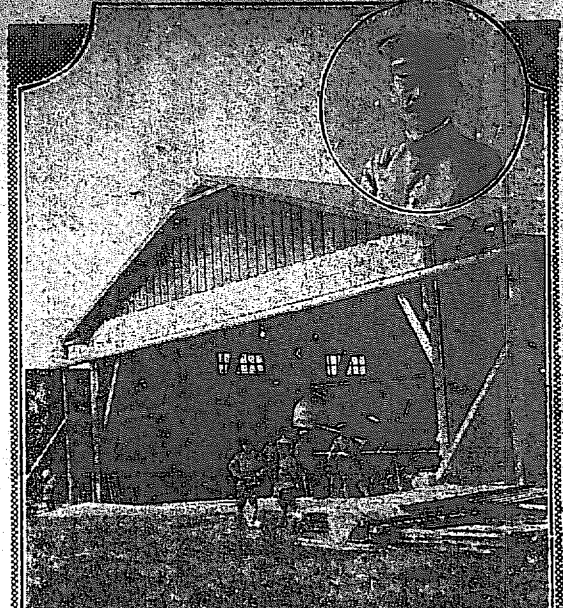
成金希望者募集 (第二回) 不可好機
[illegible]

▲時今也時今
東京市日本橋區坂本町二十八番地
山城屋株式店内 (電話浪花 [illegible])
東京株式現物賣買投資團

八角鋼、黒鉛用金網、眞鍮物製作
土工用具並ニ建築金物
地方御注文は迅速に御便宜相計可申候
商報御入用の節は御一報被下候はゞ直に御送附可申上候
直輸入商
京城本町一丁目
佐野彦藏商店
電話一六三番、振替京城一二〇

模造品續出乞御注意
オキシパサー
本器は科學界の泰斗マイケルフアラデー氏の發見唱導に係りダイヤマグチズムの原理に基く大氣中の酸素利用に依る治療器にして使用後直に
[illegible]
特約店 京城本町二ノ七一 酒本高明商店
[illegible]

鮮松原木角
長一間以上五間迄 角尺以上二尺迄
品質。良。造材。正。鴨綠江材 以上の
好評を受く
續々入荷薄利にて商談可仕候
京城古市町
材木商 熊野商會
電話長一八二番 振替貯金口座京城一一三八番



□飛行機格納庫と長澤中尉（金谷記者撮影）

西伯利從軍記

▽鵬翼一氣ハバロフスクへ!!

スパスカヤの飛行隊を觀る

長澤中尉曰く『氣流は日本内地よりも好い、大いに痛快に飛んで見せるぞ』

盛んに沿海州の空を飛翔してゐる

從軍記者　金谷眞

スパスカヤ驛の飛行場は見渡す限りの原野に設けられてある、出兵以前にはスパスカヤ飛行隊の鵬翼がよく此の空を飛翔したものであつた、飛行機は〔…〕谷に偵察に赴き九日に入つて〔…〕二日三日と盛んに沿海州の空を飛翔した、聞くところによれば飛行機は〔…〕つたが今では〔…〕に立つものは一臺もないらしい、これからは

六棟の格納庫

があつてその後方に赤六棟の〔…〕が設けられてある、飛行場は〔…〕驛の東方大兵營に續いた所にあつて今ではわが陸軍飛行隊が此處に居る、而して○○師團司令部の前進と共に飛行隊もまた前進するから長くは此處に滯在せぬであらう、飛行場に於る

長澤中尉の談

によれば此の邊一帶の氣流は一般に日本内地のそれよりも宜しく、大いに痛快に飛んで見せるとのことであつた、猶ほ八月三十日にはウス〔…〕

寒くならぬ間

に早くハバロフスクへ出て戰線に於ける其の活躍振こそは今後刮目に値する者があるであらう、飛行場の裏にはまた素晴らしく高い格納庫がある、打ち見たところ六棟の建物の外側は黄色に塗られて裡にはわが飛行機の如き飛行船を納めてゐる

二年前に急造

此の格納庫だけは〔…〕られたといふが兎に角沿海州の軍事上の設備はなか〳〵行き屆いて居たものらしい（スパスカヤ驛にて）

咸北の人は

漁夫にも會つた、其の他〔…〕にも會つたこういふ者もあれば〔…〕銃劍を吊るした哥薩克兵の鮮人を見た、沿海州と朝鮮人との關係は昔から〔…〕に因つたと、毎年晩春から秋にかけて元山、清津の港からこれらの出稼人が上陸するのは誰しも知るところである、〔…〕此の地方に移住し若くは出稼するのは地の利から見るも〔…〕の趨勢であつたらう、〔…〕京城へ行くより近いのである、それに〔…〕國は非常な柔策をとつて〔…〕々な自由を與へたから本國にあつた鮮人も政治上經濟上に面白からぬ連中は續々露領へ移住したものである、殊に鮮人には商人よりも農民が多いから露國〔…〕人の部落を造らしめ〔…〕は盛んに土地を與へて歸化人には土地を與へ〔…〕ぬ者にも一般に何利な小作を許した、それやこれやで沿海州に於ける鮮人は〔…〕な生活を續けてゐるやうに見られる、〔…〕の鮮人と〔…〕直ちに排日の一派を〔…〕等は今でも日本に反〔…〕いて居る連中もあるが少し世界の大勢を知つた者は相手にならぬやうである、我も

▽沿海州の鮮人村

流れに濯ぐ女も見られる

排日黨は段々尠くなつた、浦鹽の日本小學校に這入つたものが二十二人もある

成功した歸化鮮人……

浦鹽をはじめ沿海州には十萬以上の鮮人が居る、就中浦鹽に居るのは鮮人の七千〔…〕の七萬人である、汽車で〔…〕ふ出た人は先づ同地一番〔…〕近の〔…〕を見るであらう、而して〔…〕其の〔…〕家屋や〔…〕見る、〔…〕

婦人が洗濯

の流れを洗濯する天氣のよい日などには〔…〕

排日熱が激し

かつたのは明治四十一年頃から歐洲大戰以前は隨分激烈な運動があつた、其の後日露の接近と共に〔…〕總督府が〔…〕等に對する取締を嚴にした爲め一時は下火の勢であつたが〔…〕激派の全盛と共に又一しきり〔…〕興した、然るに本夏わが海軍の陸戰隊が上陸してからはまた靜まつたやうであるが日常の反感を有つて居るのは過激派と同一のやうである、過般までは〔…〕鹽は面白く〔…〕ないといふので〔…〕る、〔…〕かつたが今の有〔…〕様では、〔…〕り便利でなからう、〔…〕日本と朝鮮といふやうな〔…〕ならぬ國に生れた間柄であ〔…〕

一度考へ直

して見ては十座もので〔…〕であらう、〔…〕の現勢は日露の兄弟が〔…〕に〔…〕とは云へ〔…〕なものではない、何うか〔…〕して欲しいものである、〔…〕日本軍の上陸を歡迎してゐる、〔…〕日本と相提携して行かねば〔…〕可ないことを知つてゐる、〔…〕かならぬか〔…〕日本居留〔…〕の〔…〕學校に朝鮮の子弟が二十二人ばかり入學した、此の事は今から二年前には想像もつかぬことであつたがそれにより喜ぶべき事である、それに

日本の觀光團

でも一つやらうかと云ふ連中もある、〔…〕のやうに〔…〕の相場が〔…〕ては何うもならぬと云うて居る、〔…〕浦鹽の鮮人として〔…〕數年前〔…〕居た頃を知らぬのではない、

歐露に牛

以後〔…〕と云ふ汽船を有つて北〔…〕海州の〔…〕をやつてゐた、〔…〕の失敗で死んだ〔…〕婦にあたるワシリー〔…〕ヨシホウイッチ、キンといふ人〔…〕は露國に歸化したが近年兵器に〔…〕て、成功した、今は〔…〕五隻を所有する組合の取締として〔…〕鹽の市會議員である、また金〔…〕といふ人は〔…〕と共に〔…〕を送つて儲け〔…〕今〔…〕した、これも〔…〕の婿で昨今岳父の〔…〕をドシ〳〵支拂ふさうである、その〔…〕日本臣民としては以〔…〕浦鹽〔…〕吏として〔…〕近成功した、〔…〕人が何うかして日本〔…〕人と幸福を共にせんことを祈つて止まざるものである

○王公家軌範

◇……制定近し？

皇室典範改訂は重大

清〔…〕は十一月〔…〕後〔…〕首相を〔…〕訪問し〔…〕論なる王公家軌範制定に作〔…〕打合せ〔…〕問題其他〔…〕事〔…〕につき〔…〕る爲め行に就〔…〕宮内大官は王家は先帝の勅諭に依り〔…〕族の御待遇を享けられてゐるが〔…〕族たる〔…〕中々ぬので

❖王世子

殿下と梨本宮〔…〕子王殿下との御婚事に〔…〕皇室典範には皇族の〔…〕結婚は皇族又は〔…〕許を〔…〕たる族と定められてあるので〔…〕疑義を生じ最初は李王家が皇族として待遇されてゐる

❖事重大で

あるから王公家軌範制〔…〕か申す他の形式をとる〔…〕典範を〔…〕訂する事は〔…〕手續上〔…〕室典範に抵觸しない〔…〕にされる事と思ふ（東京）

❖皇室典範

は〔…〕に解〔…〕釋せねばならぬと有力な說も出〔…〕現在〔…〕では〔…〕家と王家との御〔…〕儀が〔…〕成り〔…〕る次第となつたので目下〔…〕院が皇室裁判所と共に〔…〕識懸案となつてゐるのは〔…〕上〔…〕典範に〔…〕れぬであらうとの〔…〕論もあつた〔…〕

○傷病兵

暴風の爲延著

西伯利派遣第一回の傷病兵百十七名を搭載して歸還せる御用船〇〇丸は十四日門司に入港の豫定なりしが日本海附近にて暴風に遭ひ同日午後一時半門司港に延著（門司特電）

○強盜尙横行す

昨今の浦鹽

十二月元山港の越〔…〕歸〔…〕者の談に依れば浦鹽は各國軍司令部の警戒ありて嚴しく市中を警戒しつゝあるにも拘らず强盜の出沒絕えざるもの〔…〕如く殊に憂き〔…〕たるは去る四日午前十時〔…〕波斯人バイイブラーキなる者方に

▲四人組の

强盜押入り拳銃を擬し家宅搜索を爲し在金一萬〔…〕留を奪ひ〔…〕らんとせしより〔…〕人之を取〔…〕んとしたるに〔…〕拳銃を四發〔…〕放して威嚇したるに〔…〕飛出したるを〔…〕て追跡したる〔…〕〔…〕

○朝鮮海峽

風浪高し

軍隊輸送頓挫す

關釜〔…〕航〔…〕杜絕

十三日門〔…〕來九〔…〕面の〔…〕風襲來の影響を受け〔…〕鮮海峽〔…〕海上最も風浪强く十三日は〔…〕共に〔…〕絡船は缺航し十四日〔…〕羅丸は辛うじて〔…〕港し〔…〕途中より引返し假泊中の高麗丸は〔…〕前〔…〕して〔…〕港したるが十四日入港の筈なる〔…〕共に入港せず又十四日朝〔…〕港豫定の〔…〕馬丸及び十五日朝〔…〕

▲應援を賴

〔…〕猶も追跡〔…〕んとせしに〔…〕を〔…〕射したるに〔…〕丸は不幸にして米兵に命中し〔…〕を負ひたるも屈せず追跡して終に四人の内二人を取押へ北筋に引渡したる〔…〕拋げ附けたる一束は二千七百〔…〕留ありたるも此紙幣は悉く贋造紙幣なりしこと兎に角浦鹽は物騷な處なり（元山）

にり主人は折柄通り懸りの米兵に〔…〕

○平壤の招魂祭

參拜者二萬に達す

興味を惹いた模擬戰

平壤に於ける戰死者招魂祭〔…〕の如く十五日午前七時より〔…〕上に於て神佛〔…〕式にて莊嚴に舉行されたり參拜者は文官、有位者、〔…〕在郷軍人、府協議員、學校〔…〕令、面長、道評議員、愛國婦人會、赤十字社員

▽戰死者

遺族を始め一般府民〔…〕にて步兵第七十七〔…〕隊中學校生徒等にて無慮二萬人に達し午前十一時式を終るや直ちに〔…〕

▽旋行列

あり夜は〔…〕四十名〔…〕にて之が斡旋をなし〔…〕方各小學校生徒の〔…〕步き午後九時〔…〕に〔…〕驛に至り〔…〕歲〔…〕見送り解散の筈〔…〕當日瑞氣山を中心とせる〔…〕七十七聯隊の

▽模擬戰

は時節柄一般に〔…〕衆をして多大の興味を與へたるも〔…〕は〔…〕報すべし（平壤電話）

◎開校式は延期

朝鮮〔…〕學校にては〔…〕報の如く十五日開〔…〕式を〔…〕博士の來京を〔…〕し開〔…〕行の筈なりしも〔…〕の日迄之を延期する事とし〔…〕十時より同校にて〔…〕博士の〔…〕示をうくる事となりしと

下關に〔…〕中なる〔…〕張所及び運輸部等に〔…〕兵第〇〇〇聯隊〔…〕之が爲め〇兵第〇〇〇聯隊及び〇兵第〇〇〇〇〇も未だ〔…〕著せず〇〇本〔…〕の到著を鶴首して待ち居れり（釜山特電）

◎女五名

闘中に格闘

不敵の犯人

〔…〕識〔…〕江〔…〕均こは本年一月中〔…〕て同郡〔…〕九百八十五圓を〔…〕頃〔…〕鄕したる由〔…〕て探知し八月二十一日夜十一時〔…〕熊川上等兵〔…〕助員桂昌植は〔…〕捕の爲め國均方に踏み込みたる〔…〕人は早く洋燈を消して〔…〕まんとせるより〔…〕せんとしたるに激しく抵抗を〔…〕伴同人の母及び妻も〔…〕兵に摑み〔…〕りたるより〔…〕男女五名入り〔…〕れて血まみれとなつて約四十分間暗中に格闘を演じたる末辛くも〔…〕人を逮捕したり〔…〕は同胸に二箇所右手の中指に〔…〕指を咬切られ〔…〕全身數箇所に打撲〔…〕を負ひ桂補助員は〔…〕打されいづれも治療一週間を要する負傷を負はされたるが犯人等に〔…〕少〔…〕するに至れり〔…〕は〔…〕送所にて嚴重取調への上〔…〕送りとなれり

○巾着網から

一悶著

圓滿に解決

去月二十七日〔…〕巨文島〔…〕巨文島の〔…〕人〔…〕決なりと

○米が辛つと五厘下つた

一升二十錢になる迄は

五厘より多く錢を取らぬ方針

市民は奸商を嚴重に監視せよ!!

一升四十錢五厘と云ふ嫌に半端な高値を永く保つて來た京城の白米小賣相場も十四日の卸五十錢の〔…〕に連れて愈々十五日から各等一升五厘宛の下落をしたこれで

◇……上白米

四十錢二〔…〕同三十九錢五厘、特等四十一錢になつたのである、それについて〔…〕

組合長は語る『卸値の低下した全額を小賣値にも下げたいが〔…〕これ迄の關係上小賣商では隨分苦しい値下でありますけれど〔…〕

◇……總督の

諭告も有り〔…〕せ米の事ですからこの際〔…〕出來る丈の犧牲を拂はねばならないのです〔…〕は〔…〕の標準相場以〔…〕

▲大仕掛け

なる爲め〔…〕鰮網漁船全部十數隻〔…〕乘漁夫〔…〕數百人は巨文島の釜山水產〔…〕社出張所前海岸に押し寄せ三面〔…〕所に集合し釜山水產會社の巾着網漁業は〔…〕人從來漁〔…〕し更に〔…〕鰮漁大影響を來し全島〔…〕人の生計に〔…〕する所大なりとの理由に依りその撤廢を强要せんとし中には酒〔…〕を帶びたるものもあり喧嘩を極めて〔…〕に入らば

▲將に大事

を惹起せん勢なりし爲め〔…〕に危みし〔…〕在所詰〔…〕は〔…〕百方漁夫を慰撫し〔…〕結局代表者五名は〔…〕社出張所〔…〕を明〔…〕始し同所は〔…〕敢て巾着網漁業を中止して本社〔…〕命令を待つべく同答し〔…〕たる爲め〔…〕は〔…〕事解散せり〔…〕

▲直接原因

は如上〔…〕理由に依り當に釜山水產〔…〕社に對して反感を抱ける〔…〕人漁〔…〕は二十八日〔…〕海上にて〔…〕社側の巾着網漁〔…〕と衝突せるに依るものにして〔…〕報に接したる釜山水產〔…〕社にては〔…〕に〔…〕等の主張を〔…〕に聽取したる所從て〔…〕社の巾着網漁業には

▲石油燈を

使用して〔…〕その油が海上に流れて鰮の〔…〕内に入るを妨ぐる爲め此〔…〕撤廢を迫りたるものにて〔…〕社にては〔…〕油燈を〔…〕松明を使用する事に決して無事〔…〕

◇……新米が

出ましたか〔…〕他の地方からも追々出て來るでせう、然うすれば相場もごつと〔…〕下る筈ですが特別〔…〕其他の〔…〕係で俄に下ると云ふ〔…〕は行かぬでせう。〔…〕れど〔…〕下らなければならぬ筈〔…〕す』組合の〔…〕に〔…〕の如く米價の非常識となる迄は市民は組合の

◇……意志に

反して不正利得を貪る如き奸商を嚴重に監視しなければならない

◎洋畫同志會

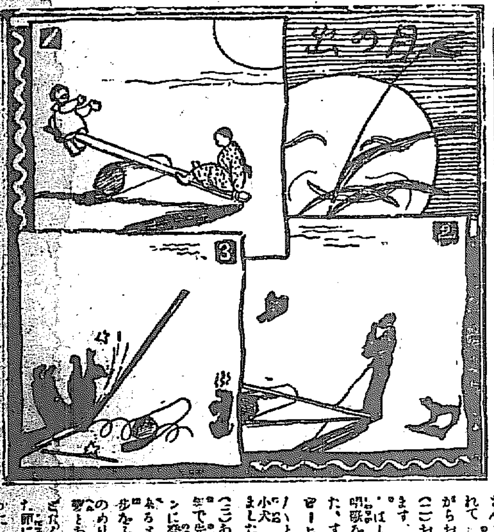
近く展覽會を開催〔…〕界の向上進歩を計らんとする〔…〕今回石川、高木、背水、山〔…〕野口〔…〕賀〔…〕雄〔…〕の諸氏〔…〕發起人となり〔…〕く同志を糾合し〔…〕の作品展覽會を開催する由なるが右は〔…〕家、素人を問はず在京〔…〕の者より〔…〕出品も〔…〕迎する由なれば〔…〕定めて盛會なるべし委細は京城府〔…〕十番地高木方へ問合せらるべし

◎危い悲鳴

〔…〕十四日午後一時頃京城〔…〕株式會社の百二十〔…〕電車が永樂町〔…〕留場に停車し乘〔…〕せる〔…〕路一丁目七十一番地〔…〕の前に〔…〕在中の〔…〕兩隆〔…〕なる者が〔…〕敢にも車窓〔…〕にて〔…〕車の〔…〕鈴を鳴らしたる爲め〔…〕か今〔…〕圖したるものと思ひ運轉を〔…〕めたる〔…〕利那降車中の光〔…〕は〔…〕りたるに本田くに（〔…〕）は是が爲め〔…〕して腰を〔…〕挫せり

◎祝賀會打合

仁川築港〔…〕は〔…〕に八月を以て〔…〕水式〔…〕を〔…〕現今にては閘門前の築堤工事を急ぎつゝあるが來る十月下旬を以て釜〔…〕宗成〔…〕式舉行の筈なるを以て仁川にては此の機に際し一大祝賀會〔…〕すべく十六日午後八時仁川商業會議所樓上にて學校組合議員〔…〕商業會議所評議員其他官民〔…〕合せを爲す由なりし（仁川）



（一）空もよく晴れ渡つてお月樣が笑ひながら中天のかけて昇つて行きます太郎さん、妹のきりん子さんとは月にうかれて〔…〕の廊縁でキーコバタンしながらお月樣の唱歌をうたつて居ります

（二）お月樣はだん〳〵高く昇つて行きます、あゝ〔…〕くなつてきたので二人はもうお家へ歸りませうと言て又唱歌をうたひ乍らこゝを立ち去りました、するとそこに一人のあんまさんが〔…〕ピーヒョロ〳〵と笛を吹きながらはやつて來ましたそこに寢て居た小犬おどろいてキャン〳〵と吠ひ出しました

（三）あんまさんはそんな事には一向無頓着で先きの二人が遊んで居たキーコバタンに登つて行きました、やがて中までくると板は平らになりました更に一歩をふみ出すと板はたちまち前の方へのめり出した、あんまさんはこりや大變とあわてゝふためく間もあらず板はドシンと音して〔…〕たあんまさんの大きな尻餅をつきました〔…〕にはこぶが出來ました〔…〕お月樣は〔…〕

▲老童庭球會

京城〔…〕球俱樂部に於ける京城オールドボーイス第二回庭球大會は〔…〕報の如く十四日午前十一時半より明治町三井物產コートに於て行はれたるが阿部組は〔…〕軍力戰しも〔…〕して追らず遂に大勝せり戰跡左の如し

紅		白
○阿川	三—〇	和田△
○安川	三—一	柳田△
◎高川	三—一	若井△
△谷野	三—一	安見△
○石元	二—三	貫田○
△山元	二—〇	田中△
△谷川	三—三	林○
△天谷	〇—三	笠原◎

純良　清酒

金露

大塚合名會社京城支店　京城南大門通二丁目

大醇燒酎

特約販賣店　仁川　河野本店　京城　同支店　木浦　阿邊橋商店　同　山口號本店　同　山本酒店　群山　山口號支店　同　長谷川商店　釜山　增永商店　同　山邑支店　鎭南浦　吉宮商店

御召工合良き靴

東京芝區櫻田伏見町角　内田靴鞄問屋

百圓　内外實收

池類〔…〕自宅〔…〕新事業

〔…〕廢物利用最新有利事業を公開す今まで〔…〕の内職とは全く異り〔…〕成功〔…〕を〔…〕

一千反限り

正金代用金指環進呈

高貴織

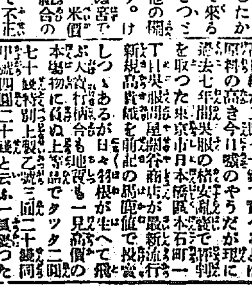
原料の高價今日の〔…〕過去七年間〔…〕東京市日本橋區本石町〔…〕

パール　椿香油

パール　ポマード

パール　煉香油

毛髮の營養に富み日本に冠たる……世界的パール煉香油として内外の需要〔…〕旺盛なり



化粧化學を應用し絕對的黑色養毛に實に遺憾なき現代理想の—椿香油

平尾〔…〕

仕入に手出が出來ぬ
不便極まる滿洲の通貨と紙幣

奉天紙幣の額には三百四十八と三百二十七とで云ふ相場が現はし或は半年の相場の如く七十四八に切むかも知れぬ當局は大に狼狽し續物資の購入に對し殆んど手も出しの出來ぬ有様に陥つた、昨年の十二月頃から漸次下向きとなり八十五圓、七圓、九圓迄に九十四に乗んとして居る然るに銀紙の比價は上海の銀塊相場に依り左右される論もあるが大した違ひはない。

奉天紙幣のみ斯も亂調的暴落

をするのは如何なる原因か、其要因は北京に於ける[illegible]は北京政府の那邊に存するやも[illegible]其他は數十萬圓の硬貨を[illegible]

紙幣價格釣上策

[illegible]

根本的兌換券の

[illegible]

一時兌換停止を

[illegible]

根抵無き紙幣の

[illegible]

金融界の大變調

[illegible]

官憲の力で強制

[illegible]

日本の軍用手票

[illegible]

朝鮮劇

舊劇—春香傳

加藤灌覺氏稿

[illegible]

舊劇—沈淸傳

[illegible]

密使命を帶びて

北行せる露國司令[illegible]

[illegible]

從軍寫眞畫報

過激派兵の俘虜　本社從軍記者撮影

東京大連間の直線電信

[illegible]

釜山と門司間には

[illegible]

大連佐世保間電線

[illegible]

鄭家屯經由線の外に

[illegible]

電話借款內容

[illegible]

支那政府に於る一年間の軍費

各省を通して約四億

[illegible]

煙草の名產私見

江　高橋幾太郎（寄）

[illegible]

物資の缺乏より

一方に於いては騰貴
一方に於いては惡評

[illegible]

滿洲の奇現象

[illegible]

建築材騰貴

奉天地方は三割高

[illegible]

滿洲の棉花會社

[illegible]

滿洲の製革業

[illegible]

過勞都上陸者

[illegible]

農信

粟（平安南道）

[illegible]

世間には隨分圖々しい奴もあればある者

前科二犯の代診

[illegible]

廿八年來の大慘害

流失四百隻＝死者一千名

[illegible]

ちぢれ毛

[illegible]

演藝案內

壽座
大正館
大勝館
有樂館
浪花館
七色指輪
秘密の王
僕金助
黃金館
最後の殘飛
白鳥弗の秘密
花咲く家
道中膝栗毛
旅の女
眞心
なき兒

[illegible]

子宮病血の道とリウマチスに惱む人は

彼れ是と迷ふ事無く眞に能く効く神癒湯を

即ち試みよ現に

◎烈しき神經痛で惱みし人
◎頑難治のリウマチス人
◎數年固疾の痛氣に苦しみし人
◎百法効なき子宮病の婦人
◎常に悲しむ血の道の婦人
◎多年惱みしヒステリー人
◎不治の慢性胃腸病めし人

なきが此良藥神癒湯の效服で漸次快方に赴き遂にはスッカリ快癒し嬉さの餘り感謝な謝狀（現在一般の御覧に供す）を寄せらる實例も少からず若し不幸にも是等の病に惱む人あらば症と輕症の區別なく即ち試み神癒湯は當方の良藥として今や全國各賣藥店に有り

眞に能く効く

◎こんな徵候の人

腰、腹、手、足、肩、背、腰、腕、[illegible]等つり、しびれ又は筋肉痛等[illegible]

定價　[illegible]

名古屋市東區京町二丁目
本舖　荒川長太郎

下痢腹痛の時

最も安全なる藥劑と謂へば

必ず……柏村博士の

ヘルプ

が選擇されて何人も本劑の

藥効を激賞す

藥効作用

●食過●食傷●水あたり●腹冷●時候あたり●冷腹●消化不良等より起る下痢腹痛▲吐瀉▲泄腹▲腹瓦斯を止▲腸加答兒▲胃加答兒を治す。

定價 貳拾錢 參拾錢 旅行用ポケット型 五拾錢 德用、壹圓、貳圓五拾錢

ロヘルプは全國各藥店にあり

衆口一致の事實

近時衞生思想の進歩發達に伴ひ、何人と雖ども藥劑選定上に多大の注意を拂ふようになつた。其の結果下痢腹痛の時には必ず本劑が眞先に選擇されてゐる。

何故ヘルプは社會一般から斯くも盛んに歡迎せらるゝに至つたか。曰ふ迄もなくヘルプには到底他藥の企及すべからざる一大作用があつて如何に頑症の下痢病と雖ども、忽ち其原因たる病源に遡り根本的治療を施すため、最も迅速に腸胃を健全に快復せしめ腸の機能を整ふると共に吸收力を旺盛ならしむ。……然るに從來の藥劑は多く單純なる收斂劑にして、病根治癒の用意を缺くるため、一時下痢を止めても、後に種々なる故障を來す惧がある……爲めにヘルプ獨特の作用が最も良好の結果を齎すを以てヘルプの實驗者は悉く本劑を安全なる腸胃藥として諸君に推奨せらるゝが何より事實の證據。

惡疫流行と各自の注意

秋は今

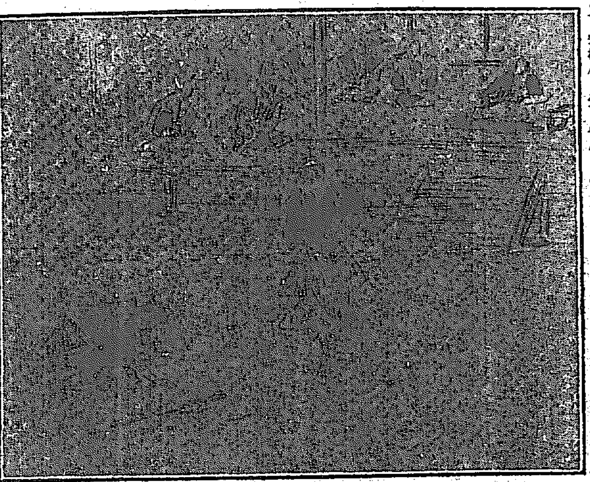
恐るべき惡疫の跳梁跋扈せんとする時季となつた。此際諸君の腸胃に僅少の故障があると、直ちに感染する虞れがある。之に反し、諸君の腸胃をして健全ならしめば、假令如何なる病菌の襲撃を受くるも、充分抵抗し得る事は醫學上の定論である故に、何人も腸胃に故障を生じ易き今、藥効の卓絶せる柏村博士のヘルプを常備して以て腸胃の健全を計り置くは、惡疫防備上最善の方法。

本舗 東京日本橋區本銀町 津村敬天堂 (電話東京八六四番)

毛谷村六助 廿六番角力 第九席

桃川桂玉口演 浪上義三郎速記

司お馬廻元侯を始めとし桂役外一同の方々は此瞬間如何ならんと手に汗握り片唾を呑んで覗つめて居りました、京極内匠はこれしきの老親爺只一打に打倒して見れんとエイッと一聲ジリッと進む吉岡老體は腰に梓の弓を張り試合ひに臨む迄は、一突突けば突倒れさうな弱腰であつたが之も、撓さ木劍を取つて勇氣が滿ちるに隨ひ老體も俄かに腰は延び互ひに進むかと思へば又退り年こそ老つても中國の雙鷲と云はれた一味齋の敎訓には鵝の毛で突いた程の隙も無く流石の内匠も心中に驚き內『これァ油斷をすると拙者が危ない』と白眼合つて居りましたが居合内匠は如何なる一味齋に隙があつたか大喝一聲エイッと筋金入りの木劍で腦も砕けと打下した、心得たりと一味齋はひらりと身を交はす其の早業は飛鳥の如く、一應一尺千變萬化陰に開けは陽に閉ち陽と開めアレヨ／＼と思ふ許り此の時内匠の打込み來つた一本を驅く避した一味齋はヤッと甲手を烈しく打つたれば強情我慢の内匠は鋭つたと聲を上げると思ひしにャッと云ひ轉化した一味齋老人も驚いた、世の中には強情な奴もあるものだ、己の其鼠込なればかうして呉れんと又もや小手を烈しく打ち得物は細くも八重垣流の名人芳岡に以前打たれた所を又打たれ小手が痺れて得物を落し殘念と思ふ所又もや笠にかゝつて續け打ちさ、七十に近い吉岡の働きに驚嘆初め一同は思はずどつと聲を張り上げ一時に一味齋の其腕を賞め稱したり、一味齋は襷鉢巻を取り解に向つて會釋をし京極内匠は殿に向ひ獸證をするどころか畜獸の如くになり一目散に御前を逃げ出しました 甲『どうだい中村殿流も好いもんぢやアないか紛擾廊だ、乙『さうだ、紛擾廊とは宜く付けた、マア左無くば傲慢だと小伜の口に入つて落て了ふ法だ。京極内匠も酷くされるものだ、居敷へ歸つて内匠は腕を組んで考へて居る所へ、寄影膳造が參りました、膳『ヤア先生どうも今日の試合は何共御氣毒樣で 京『寄影貴公は人が惡いぜ、あの親父があれ程の腕と云ふ事は拙者は知らなかつた、皆殿が除りに芳岡の事を手輕く申したから實は試合をしたが某も初心を見ねてよりかゝる恥辱を否敗れを取つたのは今日が始めてだ 膳『イヤ先生其御言葉でございますが、自分にはあの親父も名人上手と云はれたが麒麟も老ぬれば駑馬にも劣る、壹夫あれ程強いとは思ひませんでした、先生決して御嘆きなさんな貴下が弱いのではない向ふが強いのだ 京『寄影人を莫迦にしちやァ困る 膳『然し之から先どうなりましよう 京『どうなりましようと云つて此儘では濟むまい 膳『兎角私は御暇を致しますが後で改めて悠々御相談致しましよう、寄影膳造は京極の宅を出ました、家老桂能登守より京極内匠の許へ要書が渡來しました、何であらうと内匠が開いて見ると、ウ、ン多分斯う來るだらうと思つて居た、居敷は三日の内に引拂ふべし上の思召に之有昆の御暇云々内匠は家財道具を取り纏け廣島を出立しました此方は芳岡一味齋京極内匠を打ち込んで以來一層殿樣初め御家中の評判も宜く却つて之が爲め不首尾を蒙つたは大目附の兇小番頭の小川の兩人で御座います京極内匠は芳岡を恨み此儘當所を立去つては實に殘念行きがけの駄賃に吉岡を打つ殺してやらうと一味齋の他出油斷を付け廻して居りましたが思ふ樣な隙も御座いません、然るに毛利家の領分周防の國の錦帶橋が朽た爲め早速に此作事奉行を笠原大藏に殿は命じました笠原大藏は芳岡の劍法の弟子で御座います縁で萬事大藏は一味齋老人と作事に就き相談を致しました夫に就きて一味齋は笠原と共に周防の國を指して出立しました。



◎食料の野草

◆馬山警察署の調査◆

◆艾 之は原野に生ずるものである採取時期は晩春又は初夏で摘み取つた奴を乾して置いて葉又は根を食用とするのである調理法は之を煮て其汁を取り米麥に混ぜて食するのであるが勿論艾が主となつてゐるのである咸安地方に多い

◆モルイ 朝鮮語である池沼に生い育つ草で晩春摘み取り置き葉又は根より汁を取ること艾の通りで米麥に混入するのである咸安地方に多く併して此二種は常食とする其他チャルゼ(咸安馬山地方に多し)ッシクンヂ(山中に生ず)オサク(山中に生育)飯に混ぜ食ふサルヒ(前同様)等がある

◆ストムヂヤン 野生とす葉を取り醬油を注ぎて副食物とす咸安馬山地方に多く發生す

◆此外 ナサレイ、オンホク野芥は汁とし ヘルイアは芽を食す

暦 九月十七日 土曜 舊八月十三日丁卯 本命三碧 [illegible]

りん病 ばい毒 ルーデサック

本藥は殺菌力非常に大にして急性慢性淋病及び各種梅毒に用ひ諸作用なく最も安全迅速に治療の目的を達す

男用一打 四拾錢 特製六拾錢 女用一個特製七十錢 其他各種(送料要)

京城永樂町三丁目交番北 東京ドラッグ商會鮮滿本部

寫眞 寫眞出張撮影 寫眞銅版、亞鉛版 熟練せる技術を以て最も廉價に迅速と親切を旨とし御註文に可應候 京日寫眞製版部

七日ツケタラ鏡ヲごらん色白くなるゲンソ液 小瓶二十錢 德用四十錢

今東京で大評判の元素液色黒き顔赤き顔日ヤケ白粉ヤケアレ防ぎキメコマカに殊に色白く美人美男子となる全國の藥店小間物化粧品店にあり近所に品切の時は切手代用御送附あれば送品す送料内地八錢鮮滿三十錢 東京新川 總本舗

味の素を使ふと使はぬでは

大變な異い

◘酒の中へ味の素、辛味を調和して靈酒の旨さとなる
◘さしみ 燒海苔 香の物の醬油に結構な味の素
◘お吸物の中、味噌汁、茶碗蒸しの中へ味の素
◘酢の物や和へ物の味付には天下一品の味の素
◘スープ、ソースの中へ入れゝば其風味百倍す

味の素

京城日報
第五版

京城日報
人心の緊張を要す

目下重大の事件を眼前に控へながら、人心の弛緩せる今日の如きは、吾人が未だ曾て經驗せざる所なるが、當局も之に就いて大いに心配する所あり。既に長谷川朝鮮總督が周切なる論告を發し、官民を警飭する所あり、吾人亦筆を執りて之を痛論して世に告ぐる所ありしが、今回又内地に於いて、水野内相の訓令を見るに至れり。曰く「今次出兵の目的は、夙に政府に於て聲明せる所の如く、今や帝國は時局に重大の局面に進展せり、其戰局の關する所極めて重大にして、國運の將來に影響する所固より至大なり。隨つて事苟くも軍事兵用に關する所は、所謂軍隊の關係を有する召集徴發等に就ては、最も敏活にして且つ確實なる協力をなすと共に、出征者の家族遺族に對する、救護扶助及び事務の幇助等に一般士氣の鼓舞振作に勉め、以て出征者をして後顧の憂なからしむるは、目下最も緊要なりとす。今や外征の將卒は、異域の氣候風土と鬪ひ、身を兵火に暴露して、一意報國の誠を効しつゝあり、内を守るの國民は、深く其勞苦を念ひ、敢爲力行克く平時に倍するの勤役に耐へ專務に從ひ、在外將卒の毅勇忠烈に報ゆる戰時氣分を以て、國家の擁護に任ずるの覺悟なかるべからず。地方當局者は、宜しく此趣旨を體して、部内一般に對し、此重要なる時局に際して、克く民心の嚮趨を一にし、懇切に啓發して、勵精相率ゐて報國の誠を致し、益々國家の隆運を扶翼せしむるに勗むべし」と。此の訓令たる朝鮮とは何等の關係なしと雖も、其の趣旨に至りては、内鮮何等の差異あるものなし。元來我帝國は、聯合與國と歩調を同じうし、獨墺に對して宣戰せるより以來、海に於て太平洋印度洋に亘りて、敵の根據を占領し、或は地中海に入り、現に與國と協同作戰に從事しつゝあり。陸に於ては膠州灣を攻略して、東亞の根據地を掃蕩し、今回遂に西伯利亞の曠野に出兵し、聯合與國と共に、露國の秩序を恢復し、以て露國を救はんとしつゝあり。其の任務の重大にして、將來に影響する所の至大なるは、固より言を要せず。而も此を決して歐洲戰局の戰況を觀るに、狀勢次第に聯合國に有利に展開して、漸く決戰時期に近づきつゝあるものの如し。此際に於いて若し帝國にして一歩を誤る如きあらば、實に忌々しき結果を齎すに至るべきを以て、朝野一致、官民協戮して、出征軍隊をして後顧の憂ひなからしむるは勿論、進みて之が後勁たるの覺悟なかるべからず。然るに吾人が是までも屢々指摘せる如く、現今の上流社會は些細なる經濟狀態の景氣好きに醉ひ、例の成金式の放埓に陷り、國家の事などは殆ど頭に浮かべ來らざるの有樣なるは、實に嘆息すべきことにして、其の弊は下層民の怨恨を買ひ、過般の如き不祥なる事變を激成するに至れり。又中流以下に至りても、一般に精神上の弛緩の狀態に在るは、掩ふべからざるの事實にして、上層より流出する惡弊のために、少からず侵蝕せられたるを見る。此の如くにして軍國に處し、將來の進展を望むが如きは、轅を北にして南行せんとするに類せずや。

吾人は政府當局より發する訓令が如何の透徹力を有するやを知らず。而も今日の時合に此の如き訓諭を發するの止むを得ざるの狀態に在る、我國民の現狀を悲しまざるを得ず。由來帝國臣民は忠義の概に於ては、世界無比と稱せられたるが、現在の狀態にては、此の大切なる日本魂は、例の成金風潮のために消磨せられたるにあらずやとの憾みなき能はず。是れ實に國家將來の危機を伏在するものにして、吾人は當局と共に、衷心憂慮に堪へざる所なり。吾人は現に露國の解體紊亂を眼のあたり見つゝあるにあらずや。露國の解體は人心の崩壞に基きたること、何人も之を知らざるはなし。吾人豈敢て其の覆轍を踏むべけんや。ここに水野内相の訓令を紹介し、曩に朝鮮總督の發せられたる諭告と併說し、一層人心の緊張を圖らんことを勸告すと云爾。

藥學界の前途と國民の覺醒(一)

丹波藥學博士講演

本日より掲載する左の一篇は十四日醫學専門學校に於て催されたる朝鮮藥學會京城支部總會の席上藥學士丹波敬三氏の試みたる演說の要領なり尚ほ我當局諸君の参考に資す

私は此度支部總會の途すがら今日當地へ着いた許りであるが朝鮮藥學會側會があるから何か話をして貰ひたいと云ふ事で別段之れと云ふ考へも無いが幸ひ機會あらば腹藏なく申述べて置きたいと云ふ希望があるので夫を一寸申述べることにしやう。醫學と藥學とが双方離れ〴〵になつて居ては迚も双方の進歩を期することは出來ないところが從來それが理想通りに行つて居なかつた爲め歐洲戰亂の勃發と共に非常の迷惑が起つた醫學専門の人達は自分の使ふ藥品さへあればそれでよい品は何處から輸入しやうが、事實に於て然う云ふ結果となつた、即ち我國藥品の獨立と云ふ事には一向同情が無かつた樣である、歐洲亂の爲め大部分の藥品は輸入不可能となつた、我々は此事に就ては能く氣付いて居つたが如何に焦つても如何に訴へても頓と相手にされなかつたのである、彼の解熱劑の如き戰前一圓乃至一圓五十錢のアンチヘブリンが直ちに十圓となり、アンチピリンは七八十圓から百圓、ピラミドンに至つては百五十圓から百七八十圓にもなつた、六百六號の如きでも大概四五圓で手に入れ患者には十圓位で注射して居たものが四十圓も取らなければ引合ぬと云ふ有樣になつた、使ふ方では關はぬにしても患者が困る、病院や開業醫は大恐慌を來たし、加之他の藥品は益品が無くなつて仕舞つた、これではならぬと云ふので政府でも金は吝まない幾らでも出すから日本で是非藥の製品を製造しろと云ふので遂に着手したが知々思ふ通りに出來ない、色々苦心の結果追々出來ることになつたが以前獨逸から一圓位で來たものが三圓四圓位かゝるサリチールは酒類の防腐藥として一箇年二十七八萬封度乃至三十萬封度を消費する、之れは八十五錢位であつたのが輸入杜絶の爲め七圓、八圓となり結局ころ〳〵無くなつたさあ大變酒が腐る酒屋の迷惑ばかりぢや無い大藏省が大迷惑だ租稅中の重要な地位にある酒税が取れなくなるかと云ふ騒ぎである、二三千萬圓損するか得するかと云ふ場合だから十萬圓や十五萬圓位は損したからとて差支ないから必ず拵へて呉れと云ふ工合で大まごつきを行つた色々研究の結果三圓位で出來るやうになつた、三圓でも結構だと云ふので大藏省では喜んでそれを買取つて種々の手數を經て四圓から四圓五十錢で當業者に配つて遣ると云ふことになつた、所が三圓のものを四圓五十錢に賣るのだから儲かる、三十萬封度では五十萬圓許りも儲かる、其處で段々製造者も出來て次第に安く造る樣になり今日では三十萬封度は入用ないだけ出來た、其のサリチール酸の原料は石炭酸だ、戰前は二十錢から卅錢で醫師の手に入るものが四五十錢位になつてゐたが歐亂と共に五圓にもなり遂に品切れとなつた、斯うなると大騒動である、石炭酸はサリチール酸ばかりでなく其他の原料として陸軍で非常に澤山に使ふものであるが、之が無くなつたとあつては大變だ、漸くにして之だけは兵米利加等と特別の約束をして供給されることゝなつた、而して其の一部分をサリチール酸の方へ廻すと云ふことにして目下日本全國の各瓦斯製造所等の副産物から集めて石炭酸を製造する爲に使つた所で我國の需要の十分の一にも足らない殘り十分の九は材料が無いのであつた、之ではならぬと云ふので種々苦心してベンヂオールから石炭酸を拵へることにしてそれがやつと成功した

哈爾賓畫觀

(十一) 埠頭區キタイスカヤウーリツア　鶴田吾郎

埠頭區に於て最も殷賑なるはプロスペクトである、純粹のロシヤ式商店が立ち並んでゐるところは一寸壯觀である。ブローカーが此道に押し集つてゐたり、カフェから陽氣な音樂が聞えて來たり、只者でない女を乘せた馬車が泥濘を飛ばしておつたり、滿洲獨特の支那人が物騒しく歸け行つたりして、新市街の山の手式、寂さがあるのと比べてどうしてもロシヤ氣分が溢れてゐる

並行線(八十一)

瀧閑村

梅、桃、木瓜、椿と追立てられるやうに樹々の花がつぎ〳〵に咲いた、扉敷町はどこも明かるく彩られた。

午後になるときまつて、飴屋の笛が門邊にした、それを聞くと眠くなるのが常であつた。

十五六日目にはおのぶは起きるやうになつた、出産後は何か落したものをしたやうに淋しくなつた手傳ひに來てくれた人々も歸つて富大郎の家は常態に復した。

郁夫は乳を飲んでは眠り、覺めては乳を飲む、或時は育兒はこんな樂なものかと思ふ時もあつた、さうかと思ふと夜と晝とを取違へて、一時迄も二時迄も眠らないで何うしていゝのか判らなくなり、こんなに厄介なものかと思ふこともあつた。

出産は色々な問題を暫らく放棄し延期させた。富大郎も云ふ意では無く、ある晩家族の問題を言出してしまつた。「あの事を云はれると私どうしていゝか別らない、そりやモウ私が悪かつたには違ひないのだけれども、あの日だつて、餘り突然なので私がドギマギしてる間に、ズンズン上がつてしまつたのだから、私どうしていゝか判らなくなつて、歸つて下さいと云つたんだけど……」と云ひかけて泣き出してしまつた。

『俺は何も昔の事を彼是云ふんぢや無いが只其時の事情が判りやいゝのだ。』

『いゝえ、私が悪いんです、私は人の妻なぞになる資格は無いんです、ね、私も覺悟をしました。』

『覺悟つて。』

『離縁……離縁して頂いて實家へ歸ります、私が悪いんだから……』

と段々に物狂はしくなつた。富大郎は不用意に此問題に觸たことを悔いたが今更どうにも仕方が無かつた。

『そんな詰らない事を……』

『いゝえ詰らなかァ無いんです私が悪いんだから、私はどうなつてもいゝ……』

『いや俺はそんなつもりで云つたのぢや無いんだ、まァさう夢中にならずに能く考へて見るがいゝ。』

と云ひ棄てゝブラリと家を出てしまつた。

襟間神社の境内は彼岸櫻が咲始めて、春の祭典の近くなつたことを思はせた、ふと、後でおのぶが何か取返しの付かぬ事でもしはしないかと心配になつて來た。一時間程してから家へ歸つた。

『お歸りなさいまし』とおのぶは平常に變る所が無かつた、富大郎は安心し乍らも、何だか欺されたやうな氣がして腹立たしかつた。

すると、此寂しさと悲しみとはおのぶの乳を奪つてしまつた、此翌日から段々に乳が細つて遂に出なくなつてしまつた。

復用が一つ殖ゑた、牛乳を薄めて飲ませ、コンデンスミルクを飲ませた、困るのは夜半の牛乳だつた、最初から牛乳で育てたのぢや無い爲に、中々乳首を吸はなかつたが、夜半にはどうしても吸はない事もあつた、魔法瓶で保溫して置いたりした。

『どうして乳が出なくなつたんだらう。』

藥も飲んだり、揉ませて見たりしたが、どうしても出無い。

それでも郁夫は月足らずで生れた子のやうで無く、眼に見えて生育して行くのと反對に、富大郎とおのぶは眼に見えぬ覊絆に引摺られて、段々と疲勞れて來た。

偶成

高田小垰

蓬飛隴北。又更西。蕭風小小湾。乘可提携。莚風渺大髣髴晶翦。猶傳千萬嘶。客。陌上化塵無痕。伊間漂泊。學道日。紙裂千年猜。悲級之至風入之旨。何必亦存于此。

日本海上保險株式會社

新株募集

日本海上保險株式會社新株式募集

額面以上ノ價格ヲ以テ發行スル新株募集規定

當社在來資本金參百萬圓（六萬株）ノ處大正七年八月貳拾參日臨時株主總會ノ決議ニ據リ金壹千萬圓（貳拾萬株）ニ增資決定シ增加新株式拾四萬株ノ內同年九月十日株主名簿記載ノ現在株主ニ拾貳萬株ヲ割當テ殘數貳萬株ノ內壹萬貳千株ハ左ノ方法ニ依リ公募ス

募集規定要項

一 募集株數　壹萬貳千株
一 募集金額　金六拾萬圓
一 申込價格　額面以上（額面超過金額ハ圓位以下ノ端數ヲ附セザル事）
一 壹口ノ申込株數　拾株以上
一 申込證據金　一株ニ付金貳圓五拾錢（第一回拂込金ニ充當ス）
一 申込期間　大正七年九月拾日ヨリ同月貳拾五日迄（但郵便ニ依ルモノモ同日迄ニ到達スル事ヲ要ス）
一 募入決定方法　額面超過金額ノ多キモノヨリ順ニ募入シ最低額ノ申込ガ殘株數ニ超過シタルトキハ按分比例ニヨリ募入株數ヲ決定スルモノトス
一 第一回拂込金額　壹株ニ付　金拾貳圓五拾錢也
一 第一回株金拂込期日　大正七年拾月貳拾日迄
一 申込手續　當社所定ノ株式申込書及印鑑ト倶ニ申込證據金及額面超過金ヲ添ヘ當社本店ニ申込ムベキ事

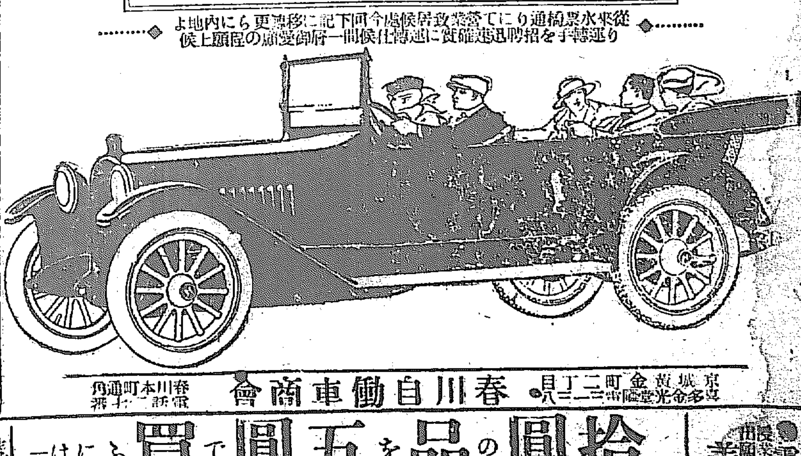
申込用紙ハ當會社本店竝ニ左記ヘ御請求被下度候

大阪市西區江戸堀南通貳丁目百四拾四番屋敷
日本海上保險株式會社
電話土佐堀（長）三三一〇番 三三一一番 三三一二番 三三一三番（長）三三四四番 三三四八番 三三一五番 三三一六番

東京支店　東京市日本橋區通四丁目
神戸支店　神戸市榮町通四丁目
横濱出張店　横濱市本町二丁目
小樽代理店　小樽區色內町八丁目
名古屋代理店　名古屋市中區新柳町三
門司代理店　門司市港町二丁目

天 洋鐵 鋼 平板 鐵力板 眞鍮板 線 地金類
京城南大門通 福田又京城支店

京春間定期郵便物運搬御用
京城春川間乘合自働車
從來水標橋通りにて營業致居候處今回下記に移轉更に內地より運轉手を招聘迅速確實に運轉仕候間一層御愛顧の程願上候



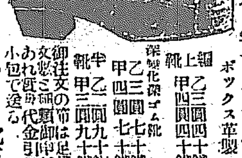
京城黃金町二丁目 春川自働車商會 春川本町通角 電話二十番

拾圓の品を五圓で買ふには——
新に製造出來
半値段

露語支那語夜學
善隣商業學校 京城壽町

購買 陸軍倉庫 龍山 詳細八九月十七日以降朝鮮官報ニアリ

丈夫で安い實用靴 ボックス革製



ツブク靴店 東京牛込

京日案內

女子募集

總督府印刷所 龍山

三好館

染料及附屬品 阿部藥房

分析鑛床調査及設計 鑛物試驗所

ほねつぎ 柔術道場

土地賣物

懷中時計

大阪屋 京城本町

最新

朝鮮法規

朝鮮農業

朝鮮郵船 書換停止公告

胃腸最新藥 ヂゲスチン

◇セミヨノフ氏陞進
大佐、軍司令官に補せらる

西伯利亞政府は極東露國軍隊統一の爲め新に第五沿黒龍團を組織しセミヨノフ隊を是れが軍司令官に補し又同時に後貝加爾竝に克軍を包含する沿黒龍州軍管區司令官とせり猶同時にセミヨノフ隊長は陸軍大佐に陞任されたり（五日哈爾賓支局特發）

◇東清罷業救濟

東清罷業救濟として支那人を増加す可く孟吉林督軍と同鐵路長との間に協定成れるを報じ來れるが十三日國務會議は是を可決し交通部に命じて鐵路工三十名を吉林に急派する事となれり（北京電報）

◇裝甲車を哈爾賓へ
東清鐵道の暴動に備ふる爲め

浦潮特電＝ホルワット將軍は東清鐵道の暴動を恐れセミヨノフ軍に使用せる裝甲列車を滿洲里より哈爾賓に廻送し來り目下同市停車場構內に横たはり居れり（東京特電）

◇東清罷業全熄す
ガイド將軍嚴令の效果

ガイド將軍は哈爾賓、チロウヤンナヤ（滿洲里周邊の約中央）及び哈爾賓浦鹽間沿線に左の如き命令を發せり

予は總ての國の政府にチェック軍の軍司令官として總ての鐵道從事者並に電信從業員に對し速かに同盟罷業を熄め其の業務に服せん事を命令す予は東清鐵道廳に對し將來國政府が鐵道從事者並に電信從業員に對する俸銀率を制定する迄諸君の同盟罷業前に於て受けたる俸銀を支拂ふ可きを命ずると同時に鐵道並に軍事行動を妨害したる總ての者を軍法會議に附して是れを銃殺す可きを命ずカヅレッ大佐は哈爾賓に留まり同盟罷業に對する軍法會議を設立し衛戍司令官亦是れに倣ふ可く又鐵道並に電信局は軍法會議長の指揮に服し戰時法律の勵行に努む可し

此命令は九月十三日午前八時より有効なるものなり

此命令に依りて東清鐵道の同盟罷業は全く終熄したり（哈爾賓支局發特電）

◇平和會議準備

李純氏は時局解決の爲め滬口に南北平和會議を開く事を提議し湖北督軍王占元氏も是に贊し目下開會の準備中なり（北京特電）

◇南軍北進對峙策

湖北督軍王占元氏は南軍攻勢を執り漸次北進して危機に瀕するを報じ對峙策講究方を請し來れり（北京特電）

◇陝西省形勢危急

陝西省西安府は目下土匪猖獗を極め形勢危急を傳へ居れるが支那政府は同地の旅行を嚴禁の旨公布せり（北京特電）

◇獨內閣更迭
墺國も亦新內閣組織中

獨帝大本營會議に於て宰相ヘルトリングは老齡の故を以て辭表を提出したるに依り今やソウゾルフ新內閣組織中なり前外相キュールマン再び外相たる可しと傳へらる

墺國にても目下內閣更迭中にて前外相ツエルニン伯總理となり現外相ブリアン講和を可能ならしむる方針にて留任す可しと傳へらる（倫敦電報）

◇英軍佛白國境に迫る

英軍はステーリー、ヴェルマン及びヴァンデルを占領しカンブレーの西北に在る運河を通過しラ、バッセー（佛白國境の佛都市）の西南に於ける鐵道の三角交叉點を占領せり（桑港電報）

◇基督教徒殺害報道肯定

波斯テヘラン（首府）より巴里に達せる公報によれば十四五人が基督教徒（宣教師を含む）を殺害したりとの報道を肯定せり（○○電報）

◇浦鹽軍西進
公報全文別電

陸軍省公表＝ハバロフスク方面にありて同市內の整理及び戒嚴逐日順調なるの狀況なるを以て第十二師團長は進んで○○州に於ける敵を掃蕩せんと欲し山田少將の指揮する部隊を鐵道により九月十二日より前進の途に就かしめ米及支那軍の一部は我軍と行動を共にし別に野瀬工兵中佐の指揮する鹵獲艦艇若干をして黑龍江を遡りて山田少將の部隊に策應せしめ航空隊亦活動を開始し十一日朝鐵道沿線の偵察を實施せり（東京特電延着）

◇芳澤代理公使
徐氏當選祝賀

芳澤代理公使は十二日午後徐世昌氏を訪ひ總統當選を祝賀せり（北京特電）

◇支那西伯利へ銀行設置計畫

目下東洋に向つて旅行の途にある米國銀行家ウイリアム、レーン氏は西伯利亞、バンキング、コーポレーションの支店を支那及び西伯利に設置すべく計畫し居れり（桑港電報）

◇廣東軍臺銀借款否認

某筋にては廣東軍政府と臺灣銀行との借款成立を否認せり但し百五十萬元の分は既に借款せるもの返濟期限に達せるより借替なるものならんと（東京特電）

◇林公使著東

林公使は十四日午前八時四十分著東霞ケ關外務省差廻しの自動車にて霞ケ關官邸に行き後藤外相と約三時間に亘り會談したる後官邸に入れり（東京特電延着）

◇輸出制限令改正

農商務省は同輸出制限令に改正を加へ鋼鐵金をも輸出禁止するに決し十四日官報にて發表十月一日より實施さる可しと傳へらる（東京特電）

◇國庫證券一億
募集發表されん

爲替資金調達と內地物價調節の爲め二行の臨時國庫證券一億圓は一兩日中に發表の上即時募債に著手さる可し（東京特電）

◇殖銀總會期

殖産銀行は十月一日京城の設立事務所にて創立總會を開く事に決定したり（東京特電）

◯辭令

十四日左の通り辭令ありたり（東京特電延着）

任東京外國語學校長（二） 東京音樂學校長 茨木清次郎

任東京音樂學校長（一等） 東京外國語學校教授 村上直次郎

◎輸送停滯と運賃の改正
全鮮商業會議所聯合會提出案

全鮮商業會議所聯合會の提出案中輸送停滯に關するもの數案あり殊に大阪、朝鮮商業會議所聯合會の提出案は西南沿海航路の如き、或は朝鮮西南に起點とする大邱、芝栗線の如き、或は鐵道貨車の增加等によりて當面の輸送滯貨を一掃せんことを願ふ說多々ある事は既報の如くなるが鐵道の滯貨及び輸送の停滯を一掃せん事を主眼とする方法の如きは

▲研究に値す べく或は各航路の新設を實せしめむとする或は鐵道貨車の增加を叫ぶもの或は海陸運絡の輸送系統を確立し以て貨物の停滯を減少せしめんとするもの等孰れも輸送の停滯を一掃する一助となるべきは論を俟たざるも今回聯合會へ仁川より提出せるもの如く運賃の停滯を一掃することを目的として鐵道運賃に根本的改善を加ふるが如きも確かに有力なる方法といふべし即ち現在鐵道運賃は海上運賃に比し非常に隔りあるを以て自然一般貨主は鐵道便に依るべく爲め運賃に

▲近來內地 では鐵道貨物の如きに至つては早くも三箇月長きは六箇月以上を要するものあり爲めに商取引を杜絶するの悲境に陷る商業上非常の損害を蒙り殆ど如き狀態に在ると一に船運賃に比し鐵道運賃の不平衡なる長距離遞減法に基づく近距離運賃の割合高なることに起因すと云ふべし同運賃の低減は何人も希望する所なるも之が爲めに一般の停滯を生じ一般荷主者並に商民をして不測の損害を蒙らしむるものあるに至つては之が適正の方法を考究せざるべからず即ち他なし現行鐵道貨物中大豆に對する特定賃金を絶對に廢し出荷の

▲眞實的狀況 に照し總て運賃率に改正すると同時に船車相互間運賃の差を可及的接近せしむるを以て彼の得たるものとし貨物の種別に依る各々の運賃を改善し一定の基準率に依り賃率を定むると共に遠距離遞減率に大改正を加へ總て運賃率に改正すること若しむを得ずば距離運賃を現行の半額以下に減ずること及び現行遞減運賃を時勢に適應する程度に於て相當改正を加ふること等を提出し居れり

◎鮮銀の利上問題
當然考慮を加へらるべし
片山朝鮮銀行理事談

日本銀行の公定步合は既に二厘引上げ影響は姑く細論を避くるも要するに貿易界に事業界に株式界に將た又債券等に於てもそれ何れにも良好の影響を來すとしては信ぜられず唯民經濟上聊か寄與すべきは如上の結果物價の幾千か低落せずやと思はるる點なり日銀當局が利上を斷行せしは旨をその邊に置きたるに更に兌換券の發行額が近く八億に達せんとし年末までには十億にも達せんとする模樣あるより此の制限を拔き步合ひを引上げ幾千にても通貨の收縮を策らんとするに非さるか

出來利率を直ちに引上ぐべきか否かの問題は素より鮮銀の貸出金利は日銀の改定に直ちに隨ふべき要なきも然も全國中央銀行の標準金利を無視するは得策と云ふべからず旁々金利引上の問題は直ちに朝鮮銀行にても考慮を加へらるべし唯その可否又可なりとしてその時步合ひ等の問題は這回日銀金利の引上影響を具さに注視して相當の策を執るを賢なりとすべく然し要するに若干の引上は免れ難かるべきか

◎近海航路時代
朝鮮海運界の前途に就て
遞信當局者談

朝鮮の海運界は既に第三期に入りたりと見るべく沿岸航路時代から近海航路時代に移つて來た、少しく既往を顧みるに第一期とは日韓併合以前の

▲全く不統一 なる時を指すのである、當時は釜山に大池忠助氏あり、元山に吉田氏あり、仁川に堀氏ありと云ふ風に各自相當の船舶を擁し國府と聯絡をつけて相當の補助を受け若くは私營で航路の經營を繼續してゐた、然るに前總督の來任するやこれではいかぬ、各自力に主として統一を加へる方針で一つの會社を作る考へで朝鮮郵船株式會社の設立を見たのであつて此の沿岸航路の整備が出來たのである、此の間朝鮮郵船の功勞は少くない、此の統一の成れる時代を第二期と云ふてよかろう、此の時代は鮮內開發の進歩に伴ひ其の發展は朝鮮に非常に利益を與へたのであるが

▲近海航路 の必要を生ずる前年並に前々年頃よりボツ／＼その實行を見て來たのである、これ朝鮮海運界の第三期に入れるものとすべく今後此の方針で大いに擴張を圖らさねばならぬ彼の朝鮮の元山浦潮航路の如き、清津敦賀線の如き、門司雄基線の如き大阪商船の起點若干ありしも朝鮮郵船航路の延長の如き並に同社の仁川、支那線の如き悉く朝鮮の物の多少位置の關係等に於てその對する航路の如きは同一に論ぜられぬけれど

▲既に南洋 に南支那並に中部支那方面まで航路を延長し內地との連絡の如き極めて密接にせるより見れば朝鮮の海運航路は猶は大いに擴張しなければならぬ朝鮮の貿易狀態も目下は殆ど內地との關係のみと云つて差支へない

上海の間の間航も遠き將來に俟たずして定期航路を開航する如きは必要であるが、又仁川鎭南浦と北鮮と內地との間に命令航路を設くるやうにせねばならぬ、北鮮と內地との間に新航路を設くる如き事も必要となつて來るであらう、以上の航路が完成すれば朝鮮の海航路は先づ十分と稱して可なり此上は第四期の遠洋航路となるのであるが成る可く早くその時期を到來せしめたいものである

▲靑島芝罘 各港の間に命令航路を開航する如きは必要であるが、此の意味から云つて仁川鎭南浦と北支那の大連等の間に航路を開くと云ふのでは遲いので初めて貿易關係が各方面について初めて不可ぬのである、今後此の狀態を推移しては不可ぬのであるが今後此の狀態を推

◎朝鮮藥學大會

朝鮮藥學會にては既報の如く十五日午後一時より長谷川町銀行集會所に於て第六回藥學大會を開催し事務報告に次いで規則改正及び役員選擧を終り夫れより諸氏の講演あり後に學博丹波敬三氏の講演あり午後六時散會せるが會員及び聽衆百餘名に及び盛會なりき

大阪より
印棉の充難關

印棉業者界は夙に戰時を迎へたる爲め本年に至る迄棉の補充買入に努め殊に明年の需要の必要を切迫し來りしを以て目下出來値の不足に苦心なるが一方市場を調査したるに其の買占め支那に求めんとし市場在荷の少く殊に用途は廣くも市價の高値にて印棉の入荷少の輸入額は十七八萬俵に達すべく買入時期は未だ決定せざるも早晩買入を開始するの外なかるべしと

▲支那向銅活躍 今回支那政府が金券條例發布と共に各省に於ては皆貨鑄造の準備をなし北部には奉天省の近く鑄造に着手するを始め南方に於ても各省の鑄造を見越して本邦に註文を發し其の他各方面より注文ある爲め大阪市場は活躍の狀を呈し最近大阪市場にて取引されたるものは約二千噸は南支の需要に向けられたる殘り三千噸は思惑の下に入りたるもの、如く目下市場品薄にして支那の大需要に應ずる能はざるのみならず

▲砂糖取引閑散 大阪砂糖市場は依然東京の活氣なき爲め內地賣行先約するも二萬噸以上の約定は引受け難き狀況なり

◎黑鉛益々不況

鮮內黑鉛業界の近況を聞くに價格下落し殊に米國に於て黑鉛製坩堝の輸入を絶對に禁じたるため愈々不況に陷りしつゝあり更に價格の暴騰を來し輸送力の缺乏は鮮內の小採掘業者にして事業の中止をなせしもの續出し大なる經費の增大に經營難を訴へつゝありと

◎東京新線有望

京城東京間の直通線の增設問題は遞信省に交渉中なりしが大正八年度豫算に計上する事となり遞信當局者にても必要を認め數年來の懸案なる新線架設は一決したるものゝ如く本問題は順調に進行せり

▲亞鉛撫順工場 大阪亞鉛鑛業會社の撫順工場は目下熔鑛爐の築設中にして本年末迄完成の豫定なるが最初該工場は滿鐵と合辦にて經營する筈なる如く傳へられ居りしが實際は滿鐵と合辦にて經營するか將た亞鉛鑛業の直營とするか又別個の亞鉛會社となすかは未定のものなれども滿鐵との合辦經營は不可能なる事情あれば結局別個の會社として藤田組と合辦にて引受くより他なきものゝ如し

▲貝釦類の狀況 大阪貝釦類は近來海外註文非常に輻輳し市內外に散在する數十を以て算する製造工場は何れも目下手一杯の狀況に有るが其後原料貝の騰貴甚だしく從前大阪渡しにて百斤二十三圓見當なりしもの現在は五十二三圓見當を唱へられ

◇鳥瞰縱組

四十三四圓の相場を現はし而も其の間ブローカーに於て多少の思惑を試みられて幾分人爲的に昂騰の氣勢を助し居り自然製品も高値に商談行はれざるべからざるが故に心ある當業者は早晩之れが反動あるべきを見越て容易に先約商談を爲さず爰に規定文仕絶せん向きも妙からず

人事消息

▲杉野原幸吉氏（鮮銀附支店長）十五日歸京

▲山木好茲氏（咸興農工支配人）同上

▲岡本幸太氏（太田中學校長）同上

▲上耳其こ勃牙利が同志の喧嘩を始めたさうか▲何方と何方だか引つ搔き合へば勃牙利に强味が有りさうだ▲上耳其のヨボ／＼爺さん行き詰りの勃牙利の風おやぢが妙な腰付で鐵を振す頭は面白い▲之も原因は云へば分前から起つた慾の皮の突つ張合からである▲巴爾幹の喧嘩は慾張りから始まるので今度なども其の珍らしい事ではないが▲云ふ迄もなく勃牙利の中風が上耳其の全部こ墺國の一部を己の物にするのが當然だと酷い事を云ひ出して▲而してアドリアノープル市を包含する土耳其北方の地帶を細長く占有した▲勃牙利は巴爾幹では能く威張る丈け先づ連中では强いが土耳其でもヨボ／＼ながら昔取つた杵柄元はあらうが爰にこ一つ厄介のあるのは勃牙利には革命的氣分が充滿して居ること云ふ事である▲西の命から歐洲に革命的氣分が隱密裡に漲つて居る▲露國の恐るのも其れだ▲伊太利▲獨逸の之れだ▲墺太利でも勃發しやうとして居るが勃牙利へ突いて强制に壓抑して居るならば墺太利へは直ぐ染する▲墺太利に傳染すれば獨逸が危い▲處で伯林の大本營は夫も千萬である▲お負にこの時なり伯林の頭は最早絕頂に付いて氣が付いたらしいから愈々勃牙利に始まれば▲小亞細亞から獨逸に向かつてある▲墺太利から獨逸を洗はる▲奏に火を附けるも同樣である▲砂の丘が浪に洗はる樣に獨逸は何時ともなく次第／＼に崩れかけた▲やて內と外から叩きつぶさる、時節が進んで來るのであるまあ五年間世界を引きつけて戰爭した爭は世界の史上を飾る丈けの價値はある▲固い鐵でも異人種異族の集まつた寄り合世帶は僞人でも居なければ破滅は遲か早い▲獨帝は鳥渡お隣の露國を見ても御承知になる譯今度はお鉢がソロ／＼廻り相な

謹賀近火御見舞
日華生命保險株式會社
朝鮮支部

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 中村精七郎 株式會社中村組農林部

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 和洋紙諸印刷 播本商店 電話一二〇番

謹近火御見舞 東京鋼材株式會社 京城出張所 吉田九助 京城永樂町二丁目 電話一八七一番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 京城農業所 電話一八二一番

謹近火御見舞 京城黃金町三丁目 元清華亭 大上カツ

謹近火御見舞 神戶 株式會社橋本商會 京城出張所 京城永樂町二丁目 電話一五七九番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 たまや出張店 電話一一九六番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 履物問屋 野村商店 電話一〇二六番

謹近火御見舞 八千代生命保險會社 京城支社

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 丸五商店 電話一四九八番

謹近火御見舞 京城若草町 本派本願寺

謹近火御見舞 京城水標町五三番地 砂糖麥粉商 德永商店 電話一二七三番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 酒井婦人病院 電話一六〇八番

謹近火御見舞 京城永樂町三丁目李王職官舍 權藤四郎介 電話八九七番

謹近火御見舞 京城黃金町三丁目電車通 ドラッグ商會 電話一八三三番

謹近火御見舞 大正製藥株式會社出張所 專務取締役 駒澤佐二郎 京城永樂町二丁目 電話一七〇二番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 愛國生命保險株式會社 京城出張所 電話一八九〇番

謹近火御見舞 京城黃金町二丁目 藤原京城支店 電話一八九三番

謹近火御見舞 京城黃金町二丁目 二宮商店 電話一六九九番

謹近火御見舞 京城黃金町三丁目 淸水金屬製作所 電話二〇三九番

謹近火御見舞 京城黃金町二丁目 湊商店 電話二六五番

謹近火御見舞 古物商 京城黃金町二ノ二〇 西島菊二郎

謹近火御見舞 京城永樂町二ノ一四六 三浦商店

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 山下洋服店 電話一六九八番

謹近火御見舞 京城黃金町二丁目 茨木自轉車店 電話二九二七番

謹近火御見舞 京城黃金町二丁目 提灯商 石野商店 電話一五〇二番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 株式會社 朝鮮紡織會社

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 生そば 讃岐屋 電話一八六七番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 齒科醫學士 近津義彝

昨夜近火の際は早速御馳付御見舞被下候段奉深謝候取込折柄貴名も不洩れ乍略儀以紙上御禮申上候 京城黃金町二丁目 首藤京城支店 電話一七一一番

昨夜近火の際は早速御見舞被下候段奉深謝候取込中貴名も洩れ不計に付乍略儀以紙上御禮申上候 京城黃金町三丁目 木材商會 中濃谷秀雄 電話四二八番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目七號官舍 渡邊彰 御高名伺ひ洩れも可有之乍略儀以紙上御禮申上候

昨夜近火の際は早速御見舞被下候段奉深謝候取込中御高名伺ひ洩れも不計乍略儀以紙上御禮申上候 米井商店 京城出張所 京城黃金町二丁目 電話一六九六番

謹近火御見舞 京城黃金町二ノ二四八 本田醫院

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 龜屋 岩瀨

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 輸出入商 榮洋行 電話一二四番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 醬油商 村島商店

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 宮地

謹近火御見舞 京城府若草町 山崎

謹近火御見舞 京城黃金町三丁目 碇

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 表具師 網島 電話一八〇八番

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 具然

謹近火御見舞 京城黃金町三丁目 兩谷

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 松風會 山中

謹近火御見舞 京城永樂町三丁目 吉備

謹近火御見舞 京城黃金町三丁目 早川

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 豐田

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 細工專業 上山

謹近火御見舞 京城永樂町二丁目 岡 電話一〇〇

謹近火御見舞 京城黃金町二丁目 樽屋

謹近火御見舞 京東 ドラッグ商會

昨夜近火の際は早速御見舞被下候段奉深謝候 京城永樂町二丁目 本莊

虐待された避難邦人

豚小舍の樣な船室でパンを喘りつゝ支那人にさへ馬鹿にされて

十一日目に浦鹽へ著く

従軍記者　金谷眞

ハバロフスク避難邦人百七十名は九月十一日午後二時無事浦鹽に歸着しました、浦鹽歐陸埠頭に一行を出迎へるこ浦鹽エルドラード號の上には行李の山に人が居る小供が居る、なか/\の騒ぎであつた、一行の代表者はハバロフスクの開業醫白石歐利師、昨年まで京城の西本願寺に居た人で洋服の

▽上に袈裟 をつけ黑のヘルメット帽こいふいでたちでヤア/\と挨拶された、暢附にされた埠頭には露西亞の兵士ナエックが監視してゐる、御者が見張を嚴しそれに出迎への人や荷物の洪水でゴッタ返してる、御者は押すな/\の雜踏をさけて歸つた、西亞人の顔な騒ぎでした、か眺まれたのに耐寧した、白石師曰く「ハバロフスクには數日間滯在して來ました、ハバロフスクにはこれまで

▽在留邦人 五百名位ゐりましたが一部のものはブラゴエやニコラエフスクに泊つて居ります、這回の避難民は一應浦鹽へ避難して落付ハバロフスクの同僚次第また/\同地へ引返します、なにハバロフスクは占領されましたが、それは些とも知りませんでした、何時？五日頃？それはお目出度い、みんな喜ぶことでせう、此の船は朔日にニコラエフスクを出帆して途中アレキサンドロフスク港で石炭を積みました、船には敵方の極東勞兵會々長クラスノシチヨーコフの妻君が乘つて居りますが船長は非常に

▽是を歡待 してわれ/\日本人は見向きもせぬこいふ有様です、御免なさい避難邦人は此の豚小舍同然の三等室で十一日間パンを喘つて辛抱して來ましたその上船中の支那人及び支那人はわれ/\が避難民だこいふので何れも輕侮の色を見せ時々喧嘩を起りました、その上船員までが酒に酔つぱらつて日本人を突返にするこいふ始末、私までがこう/\支那人こ喧嘩しました、船長は多少獨逸系の男らしく私が一を表して抗議したこいふのが私の

▽旅行券を 取あげましたが昨日わざ/\返しに來ました、しかし私は船中の暴狀を日本領事館に訴へるつもりでこれを受け取りませんでした、避難の子供は四五名居ります、婦人は主に職業の違ひ世帶道具はあちらに殘し唯だ衣類こ布團ばかりさらへて來ました……京城はこのごろ如何ですか、本願寺の松原さんもおまめですか」と折から浦鹽の出迎へ者が來た

甲板上はまた押すな/\の大混雜の中に皇評して去つた

▽過激派首領の夫人こ語る

チユルガを通つて横濱へ

ハバロフスク避難邦人の大混雜の中の乘客は同じエルドラード號にみつた極東勞兵會々長クラスノシチヨーコフ夫人に會つたクラスノシチヨーコフは敵方の過激派の首領株こんご夫人子供を安全地へ引揚げさせたのである、船の二等室に飛び込むこ、綠の眼鏡をかけた小柄の婦人が子供を二人伴れし上陸の準備をしてゐる、腕章を指して『コレスポンデンッだ！！！』こいふこ外にも嫌な英語で話しかけた、聞けば夫人は亞米利加人ではなかつた、船員が來てサア上陸なさいこせきたてる夫人はハバロフスクを出てニコラエフスクを通り今來ましたこ云ひながらハバロフスクの陷落を聞いても始めて落付いた顔色を装ふて居た『これから何處へ往かれる』かこ訊くこ『チユルガを通つて横濱に往く』こいふ『チユルガまでの船は何時あるでせう』こあべこべに質問して『浦鹽は何處に泊られる』こ訊けば『まだ解りませんあなたは何處か好いホテルを御存じですか』この問、其處へ船員が上陸を促したので其まゝサヨナラ!!

□東宮御參內

種々御物語

東宮殿下には十四日午後一時參內兩陛下に御對面種々御物語あり同四時過ぎ御退出相成りたり（東京特電）

シドラード號は此朝日ニコラエフスクを出帆しやう/\十一日目に着きました、我々が初めて日本の

▽出兵を聞 いたのは八月六日齊々哈爾領事館の吉井書記生がわざ/\ハバロフスクまで知らせに來て下さつたので知りました、それでスワ大變だこいふので第一回の避難民は七日にブラゴエに赴き八月第二回がニコラエフスクへ九日はまたニコラエフスクへ飛んで十二日には續いてニコラエフスクへ避難し最後の我々がやう/\八月十六日に出發した次第でした、ハバロフスクからニコラエフスクまでは途中四日掛かりました……

従軍寫眞畫報——金谷従軍記者撮影

（上）浦鹽停車場前の日本兵（下）浦鹽に來れる支那軍

靴の中に三年の食料

お伽噺の樣な事を獨逸では事前に研究してゐた

……お尻を突つかれて發達した日本の藥界

賓慶閣席上にて　丹波博士の講演

丹波理學博士

…んにしても今では洋方面にまで賣入して日本の顧客を奪ひ、然も我より安價に供給してゐる、萬古焼なども御多分に漏れない方であるが一方私が獨逸に在つた頃、既に彼の科學教室主任ホフマン氏の後を受けたるエミール、フヰッシャー氏の如きは砂糖の人工的產出ゴムの人工的製出、進んでは人間の生活の主要なる

◈蛋白質の 人工製出について研究を發表して居た、若しその研究に成功したならば靴一個の中に人間三年間の食糧を容れ得るこいふ樣なお伽噺の樣な事實が現するのである、是が戰前も大…獨逸では日本人は模倣が上手だからこ云つて非常に怖れて居る獨逸の會社なごは充分に此の内を參觀させて呉れないこ云ふ樣であるが、實は獨逸の方が模倣は上手である、假へば木器である、彼等は早くその模倣に成功したばかりでなく更に

◈研究を進め 生産を減…前の事であるから今日の彼等の生きも非常に遅くない、その結果今日の獨逸が戰ひを繼續し得るのであるこも云へやう、學問は

◈國の基礎 をなすそれからは研究である、わが藥劑界の歩きも非常に遅れて研究に研究を重ねた結果今迄輸入に依つより外なかつた藥品の大部分十の八迄は本邦に於いて製出する事が出來るやうになつたのである、現在では內務省に藥用研究會の設けらるゝ有り、而も藥草等も熱、濕、寒、冬の適當の處に

◈種子を下 す許りか…の手より南岸を遠ざけて、わが手に解熱劑『コカイン』を得るコカ葉及び『キニーネ』を採るキナ樹の栽培を深く…買收するか又は石炭を得る上に於て、テールを副產に得たなら（目下全國のテールを徵發しても全使用量の十分の一より產出しない）

◈全使用量 の八分を充たし得るこいふ譯で、石炭を生かすは可成コークスにして副產テールを多くする樣にこいふ樣な研究をして居るのである、化學の威力は恐ろしい願はくは一般製藥業者も此の化學の威力を藉りて充分研究して頂きたい、殊に吉林人參の產地こして有名な朝鮮に於ける問題は決して尠くなからうと思ふ

◆本社講演會に出演せる靑戸先生

○滿場思はず首を垂る

感動を與へた　通俗講演會

本社主催の通俗講演會は十五日午後二時より日の出小學校講堂に於て本社…局長の開會の辭こ共に吉山江…の紹介により靑戸先生は先づ莊重なる態度を以て

嵯峨天皇御製

ひさかたの天より下すたまぼこのみちある國ぞいまのわが國

明治天皇御製

かみつ代のみよにおきてし道こそはみたれぬ道のかゞみなりける

昭憲皇太后御歌

おしはらふ瑞穗の國のよろつよも…こ思ふそおのれがなりける

あらたまのとしの光によろつ民いよいよみがけめぐらの道

を朗讀、聽講者は坐せる儘前に額づき一般それより演題『禮の大事』に就き禮の國の始めより次第に支那は文字の國たりこ禮の二方面即ち敬こ恭を説き更に進んで國家人の禮、日本人の精神等より齊藤素讀の御趣旨を拜し得し禮の精神を述べ涕流れざらんこ欲す…を論じ其の熱心こ卓拔なる識見は聽衆に多大の感動を與へ…拍手の裡に午後五時過閉會したり

○諸戸警察有罪

顧死刑…者を脅迫して…を買取り退去を命ぜし伊勢桑名の前代議士諸戸清六氏の警察事件…は…出入りの者三名こ共に有罪となり二十七日安濃津地方裁判所に於て公判開廷の筈也（大阪特電）

○軍隊の送迎から

怪我人を出す

十三日朝神戸…所に於て…鐵路…の…にて軍用列車送迎群衆熱狂の餘り柵を踰ゆ踏潰に倒れ…者…なるより巡査鈴木喜平次氏が無…ために…つらる負傷…（神戸）

◆燃裝中の…來の鈴木巡査は群衆に押されて列車に觸れ重傷を負ひ生命覺束なき有樣…（神戸）

○北滿派遣軍一部の

○○部釜山上陸

○兵站○隊本部も到著す

釜山上陸北行す可き北滿派遣の第三○○の第○○○○○○○○○部及○兵第○○○及○○○兩○隊○部○○○隊本部と共に第二梯團より上陸佐々木道長官中村警務部長其他釜山官民の歡迎を受けつゝ自動車に搭乘大旅團の○○部に入れり又同三時を載せたる御用船は先日來暴風の爲め六連島に避難し居りしが恢復に連れ○○は十○日午後二時釜山港○○○○以下第○○たる○○兵第○○○隊○部を乘せ○○丸入港同じく第二梯團より上陸次いで○○丸も入港同一行上陸各町に分宿せり市內甚だ活氣を呈す（釜山特電）

○神職講習會終る

鮮全道神職會の式講習會は去る五日より十日間の豫定にて京城俱樂部に開催中なりし處十四日終了せるを以て當日午後二時より閉式を擧行せり、刻限怪府より內務長官、理關…務局長は…事務長官及其他京城…行員係員こ共に著席の…式…祝辭…懇切なる訓示こ共に…及び會員講習…終つて三閉式…にて記念撮影の上食堂にて茶菓の…饗應あり和氣靄々裡に散會せる…講習員は凡て二十二名…講師…の…熱心こ…を…つて其結果は斯道の面目を改むるに至るべしこ

○勝祈願祭

十五日午前九時より安東神社に於て戰勝祈願祭を執行せらる參拜者頗る多く…かて盛大なりき又午後より八幡神社の秋季大祭執行せられ相撲の餘興あり殷盛なりき（安東特電）

○博愛丸出入

浦鹽船博愛丸は十五日午前五時下關出港同日午後五時半釜山に入港するが同八時半下關へ引返せり（釜山）

○敵の裝甲列車に

一發見舞ひ度い

熾んな迎送を受けて北進した

○○長山口少佐の快語

一三日午前○○○○○部隊○○○○部隊○○○○○部は○○時○○龍山通過北行したるが當日は○曜日にも拘はらず連日の如く內鮮人學校生徒男女…窓に花を…の他の迎送あり何れも折々砂塵を揚けて吹き募る

○烈風中に 休憩又卒の…旅に努めたるが將校休憩所に於て…を喫しつゝ○○○○○長山口少佐は記者に語つて曰く『吾々が行つても大した活躍は出來まいこいふのかね、或は然うかも知れん願はくば然うありたいものだが然しげけるこころまではグン/\進むつもりをしてみたいものだこ思つてる吾々の○○は

□遠距離迄 屆くから敵の裝甲列車抔は目附次第速射で追つて來るが今日のやうに敵の逃げ足が早くてはそれもできるかどうかこ危んでゐるのだ』

○永樂町大火

二十戸を全燒す

十五日午後八時京城永樂町二丁目八番地から出火し全燒二十六戸半燒二十二戸は全燒したる大火あり、火元は…十分頃辛くも消止めたり、當日は朝より南の風荒く初秋の天候こしては稀なる荒天なりし爲め火は

▲忽ちに大火 こなりしものにて火元は未だ判らず目下殿重取調中なるが發火の場所は瀨川材木店の裏手なる八十一番地附近なるもの、如く附近の地には洞窟或は堆積…の家屋ゴタ/\並び居り…警察部の…と話…手入久保警部…

▲罹災者の中 に判明せしは前述の外杉田郎兵衛、田村、土…、町總代佐…、藤等の諸家も不幸全燒したるもの、如く商附近にて一時危ふく瀨して辛くも逃れし…は…、酒井…、具…務官等の…宅にして路を隔てゝは本田醫院の前に宅あり…なき見込みなり取調べ中にて發火時間が…の内なりしより幸ひにも人畜には死傷なき見込みなり

▲高壓電流あ りしは京城電氣株式會社の送電用電柱の前數戸なりしが殊に危險なるもの一時は京城瓦斯電氣會社の送電を絶せしは應急處置にして…權宜の措置こ言ふべく…黄金町の電車は群衆の爲一時運轉を中止せしも程にて其他各方面共身動きも出來ざる位野次馬の群衆にて中には非常線内に侵入して立ち騷ぎ警官こ衝突して格鬪する彌次馬さへあり一時は非常なる雜沓を呈し京城に於ては近來稀なる光景也き

▲折柄の烈風 に表火の手は瞬く間に擴まされ表通りの軒高なる二階建瀨川材木店の隣接せる木造家屋下駄屋、菓子屋等數戸の居並を悉く猛火の盛も同時に表通りも一面の火の海に包まれしが附近は其路の狹隘なる所こて家財を搬出すべき道もなく餘りに火の手早かりし爲め命からがら逃れ出したる程にて其の混雜名状すべくもあらず

▲斯くて出火 こ共に南大門常設消防詰所より二臺の水管自動車先に驅けつけ其他黃金町詰所を初め各消防詰所、京城義勇消防組、消防手も恐く現場に出動して必死の働きにて防火に努め同時に所轄本町署にては小牟田署長以下全員出動し鍾路署、龍山警察署、京城分隊、兵憲司令部、務總監部等よりも多數の憲兵、警官駈付け直ちに

▲非常線を張 りて要所々々を嚴重に警戒し罹災者の避難救護、家財の搬出並に盗難豫防等に從事したるが遂に八棟を烏有に歸し中には可成り大なる

◆近來に無い

大火である

火元は不明

防主任小熊警部曰く「永樂町目下の所こ言ひ、十數戸に亘り延燒した程であるから京城では近來にない大火こ言つてもよい、まだ火元は判明しないが最初金正材木店の

▲一本材に燃え上つ た焔が折柄の西南風に煽られて瞬く間に附近の家屋を脅す盛な勢を以て延燒を起さしめつゝあの一團を烏有に歸せしめたのであるから一時は道路を隔てた西村屋商店本田病院など危くも見られた、消防隊はつり

◆家財の山

を築いた町角

された火の手が擴がるこ見るや附近の家々では家財の道具を戸外に運び出したのは具と同然に山を築いて其場に置いた爲め是が爲めにひ交通の路をも塞ぎはや/\この平電車は通行に苦しむ始末に非常の雜沓を來したが中には…

◆近火者の混雜

『家はモウ燒失した！…』危くも延燒を免れたる…家具を戸外に運び出したのは…階下の各室は…防手の働きによつて…せたる事こて…は…て居た、ある者は…通り燃て居る程で一時は…からぬこ思つてゐたが…たのでやつこ助かりました…ので…防です、こ語りつゝ居る中にも…から火の粉が夜空のやうに飛んで…る、馬屋…一殿つて來る、裏に…たなごこ言ふ騷ぎのために…全く身動きも出來なかつた…はやつこの事で電車通りに…したが家は御覧の通り大分…

◆水道の効果

で擴大を免る

別項の如く發火は午後八時…水道の斷水前であつたため道…變なきを得たが更に水道の…の上に至り鎮火したるまで…る事こした結果流石に…した大火も一時間の餘…を得たが九時斷水後の出火なら…は恐るべき大火こなつたであ…こ同部…語つてゐた

◆火の粉が熾んに

黃金町の方まであり南大門の…に動車も逸早く驅せつけたが…りは先分に行屆いたが何分…ぶので北邊でも此處でも一方に…をする始末だから一寸手も…一方を喰ひ止めねばならぬ…命、疲れた、殊に道向ひの…言ひ合したやうに二階…

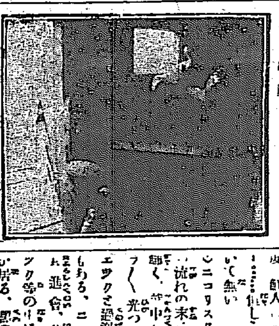
◆建築の防火壁

…燃えついたのが動くなかつた…は冷々させられた、…は…燃え易く、窓際に…たため屋根から延燒したのは…くも殘念でならない…ためにも…で置いたが私の注意通り…屋根の上まで突き出す…は四十分頃最も火勢の…自分も非常に配したが…酒店の酒庫に火が入つては…大事こ全力を擧げて防火に…ため事なきを得たのは不幸中の…ひであつた

□戰線へ（二）

従軍記者　金谷眞

露國鐵道の停車場から四十五里のラズドリノエ驛に出てからは…の七草や、綽の森を見たラズドリノエの…の…部隊長が戰つた迹を見た、此の時何間の…我軍は賊を撃つべく進んだ…本軍の…から眼で來て、來るも一隊の武者…よろしくボン/\ボン/\やるので…方は匪賊の彈丸より後ろの方が…つたこ言ふ…野戰病院の…日本の…馬賊…られて死に一生を得た…此の邊で殺られたさいふ…には米國兵が立つてゐる…には夕食…本軍の如き…



『紅い夕日に照されて……』ニコリスク—ニコリスク…驛外の…

…のいつたものである、晩にはまだ…映して…人に見せるさいふであつた…と言ふから『朝鮮の…西…です』と答へて大笑ひさなつた、昔し本…安…の…部…出したと…物…ある、初めての此の沿線…旗が見ゆるのが何より…こ…した、自分も二コ/\した…カン、カン、カン…汽笛…列車は…北…方面に…灯火が見えて…北斗七星は…赤い…八月二十…日の…團…出る…の…によりて…のに…負傷した者…なる…十字を…かけて射撃します…人もありました…から負つた…寺の…てやりました、看護卒には…つても足りません……（ス、スカヤ驛にて）

妻の心 九十四

十五の七 小林蹴月作 武内桂舟畫

『あらつ、阿母さま、大層お早う御座いますわね。』と、禮子は、慌ただしく坐住居を取繕つて、座蒲團の上へ請じた。

『なァに、早い事があるもんですかね。もう其方此方九時になりますよ。妾は、お前との堅い約束を守つて、彼の以來、母屋の方へは一寸足踏もせずに居ましたが、今朝と云ふ今朝は何うしても是非々々久さんに遇はねばならぬ要件が出來したもんですからね。いゝえ、お茶も煙草盆も要りは爲ません。から、久さんを此處へ呼ぶなり、何方かへ案内して呉れるなり、何方かに願みますよ。』

と、姑は、喜久子の持前ではあるが、險此上もない氣色で、縁端の邊をばじろ／＼と睨め廻しつゝあつたが、

『それぢや、久さんは朝早く外出してお留守だとお云ひのかね。』

『はい……阿母様なんで御座います。』

『お留守とあれば、喧嘩にもならない話と云ふもんだが、禮さん、此の縁側に着いて居る泥の足跡は、これや一體什うしたと云ふの？』

禮子は、飛んだ所へ目を着けられたとは思つたが、まあ隱せるだけは隱すに如かじと考へ直して、

『はい……それはあの、昨日の夕刻植木屋が參りまして、何かの時に……。』

ね。此の泥足の跡はこりや、お前、假令何と辯疏をお爲でも、盗人が逃げ去つた足跡としか思はれません。その證據には、此の雜阮の水道の下から掘際の所まで、花崗石の上から順々に飛石を傳はつて、歴々と續いてるぢやありませんか。それに第一、植木屋が什うかうつて、お前はお云ひだけれども、松の木一本、檜の葉一片鋏を入れた個所が見當らないぢやありませんか。ねえ、禮さん、お前は何ほど良人が可愛からうと云つて、實の母親にまで沸湯を飲ますやうな所爲振をおやりだね。爲なくとも好さゝうなものだね。ありますよ。妾には妾の天眼通と云ふものが、お前が包み隱してお在でも、町川の家を潰さう／＼に掛つて居る久三郎さんの腐り果てた心底を見抜く事が出來ずに、嘘作りの限りを盡してまでも、此の母を苦しめに掛るとは、そりやお前、大の親不孝と云ふもんでせう。お前がお座なりばかし云つてお在だから云ひますがね、實はね、禮さん、お前の大切な旦那様が昨日の夕方から歸つて來ない事も、昨夜の一時前後に曲者が忍び込んで、お前の時計や指環を攫つて行つた事も、何も彼も悉皆妾は承知して居るんですよ。』と、喜久子は、殆ど火を吐くばかりの凄じさである。

が今朝は平生の性急以上であつた。足下から鳥の立つやうな急つ込み方である。それでも、肝心の久三郎が、家に居つての事であるなら、或は急き立てられても毛頭驚く所はないのであるが、事情は前日來の通りである。禮子は、バッタリ行詰まつて了つた。

『……あの、阿母様、旦那様はあの……一寸此處まで會社の方の御用で……お出ましになりましたばかりで御座いますから、妾で濟みます御用ならばあの……妾まで……』

と、禮子の言葉は、宛然訛りの人間が口を利くやうである。

『何ですと、禮子さん。』

喜久子の底意地のわるい尖つた聲は、ぴりゝと障子の紙にまで響いたやうな氣が爲る。

『あの、旦那様は、一寸お留守なんで御座いますから、御用が御座いましたら、妾にまで何卒……。』

『お前で濟む用なら、初めからお前に云ひます。』と、喜久子は、

隨分苦い返答であるので、禮子それ自身でさへも思つたが、外に頓智の出やうがなかつたのである。

『好い加減にお爲なさい、禮さん、何處の植木屋が泥足の儘で、お座敷の縁先へつか／＼上り込む奴があるもんですか。縦へば、よく／＼の都合で上り込んだところで、後はちやんと拭掃除して行くものに極つてるぢやありませんか。』と喜久子は、倒執拗くも目くじらを立てつゝ、敷へるやうに泥の足跡を仔細に檢べて、

『禮さん、昨夜の夜半過にお前さんの室には、何事があつたらうね。』と、思ひ切つた斷定的の一言。

『いゝえ、別段何事も變つた事は……。』と、禮子は、反對にしごろもごろである。

『禮さん、親に向つて嘘を吐く事はなりませんぞ。妾はお前を稚い時分から嘘を吐くやうにと云つて、育てた覺えはありませんから』

日報歌壇

◇あかつき　高須賀　獸

しののめの風の凪ぎたる桑畑に光りわびしら朝の月かも

朝の月と茜の山にさしかかりうすきながらのまたゝきのひかり

かさ霧ず日に消ぬざれば光りつゝ玉と飛び散る桑の葉の露

ひかり風吹き光りて打ち靡く桑の畠にいや露きかも

平かに日のさすころとなりぬれば桑の畠は色まさり見ゆ

畔道を辿りがかるや朝露に閉ぢ裳ぬられて淋しきものか

淸らに河ほとりめどこれやこの淋しき秋の色とこそ見ゆ

さびしさに花を投げけりまかがよふの大河の秋の眞ひかな

ひんがしのくれなゐ燃ゆる雲消ねて朝は何時しか消ぬて行くかも

夏のまは花笠頭に翳りけるが君を訪ふさてや長くせり（川崎氏へ）

一夏を釣に暮らして逞しき男となれり君に語らむ（角田氏へ）

やあ御二、秋風吹くと呟きて店先に汝が眼は敵け（樹二氏へ）

日報俳壇

ロ木の非會詠草（安達龍蛇選）

立秋

監獄の日やヒソと秋の立つ　梨影

並木道ある風に秋立つ大路かな　同

水死せし兒に線香や今朝の秋　同

秋立つや黍の葉擦れの爽さよ　立山

泳ぎ場に秋立つ天幕仕舞居　同

藏の幾つに働く人や今朝の秋　同

露濡れて重さ草履や今朝の秋　米鼠

秋立つや十潟と咲く葛の花　同

黍の穂波に動きぬ月を晩に秋　黄緑

秋か立つ空の深さよ鰯雲　同

秋立つや垣の外なる水の音　不求

今朝秋や湖より濃き空の色　もこ女

曙や秋が立つなる樹々の風　同

秋立つや大樹の肌が吸ふ旭　濤雨

投網あぐる手に秋の立つ雫かな　同

トンネルを吹き抜く風や今朝の秋　松南

水に峙つ檣の大かや今朝の秋　同

秋立つや宿直の灯に海の音　緑紅

句座人の額を射る灯も秋たり　同

秋立つや經庫へ輕き上草履　同

今朝秋や怒濤に堪へて峙る岩　同

船の煙が來る境内や今朝の秋　同

今朝秋の都大路を人馬かな　同

公私衞生（四）

注意の不注意

短野生

▲塵芥箱について　塵芥箱を有用に使ふことは毎時生ずる塵芥類を其都度收去し得るならば問題は起らないが是が出來ぬとすれば塵芥箱は要々な事柄である然るに案外輕視して居る者があるのは遺憾であるそこで是を設けることの必要なのは勿論であるが其設けたる箱の利用に就て合點の往かぬことが多い折角金を懸けて作つた箱には入れずして其外に棄る下水に棄てる尙解し難いのは箱の傍まで足を運びながら中には入れずして直其側に棄てるもの、多いことである外に

▲山ほど積んで居る　果して箱に容れ切らぬのかと中を覗いて見ると空虚である又は遙に餘裕がある斯うした僅な勞を惜み折角の設備と目的を無意味にする恐らく此樣な人は便所へ行つて手を洗うても片手丈け手洗鉢に手を入れて指の尖丈け洗つて手を拭かぬ手合であらう『食客角な座敷を圓く掃き』と謂ふ樣な皮肉な譏りを受けぬように棄つべき處所にしつかり棄てて自分も人も心地よい樣にしなければならぬそれでなければ蠅に卵の生み着け場を製造して提供することになり蠅は得たり賢しと增殖の好機會を得るのみならず市街を不潔にし他人に迷惑を掛くるなど何の點から觀ても

▲沒公德な人　となるのである、事柄は同じであるが箱の蓋をせぬ人が是れは又頗る多い不潔な不體裁な腐敗物が露出して惡臭を散ぜしめ蠅の附着や繁殖を態々招くは兩者と優劣の無い無茶な仕方では有るまいかと思はれ丈のことが一齊に出來なければ幾ら一部の家や人が、清潔や衞生に精々努力しても全體から見て殆んど徒勞に屬する愛護等へて來ると是等怠慢な不性な不心得者は市民全體の公敵である看過してはならぬ何も人殺しや强盗詐欺許りが罪人ではない

皮膚徽毒科

皮膚病　徽毒病　淋病　膀胱病　生殖器　機能疾得

入院治療（診察夜九時迄）　日曜祭日午後二時迄

京城明治町二丁目（元町四丁目）　佐藤醫院（電話一七三二番）

新刊紹介（到着順）

▲安先生石之部　五段制建築法著七段の二とあり本卷には主として先の石ヶ級の上下兩面の平易解の圖解に一二一間挾（三）二間挾（四）三間挾（五）高目（六）目外し（七）斜（八）鎬（九）増補の九篇を收む著者曰く『石の生きた石を知らざるか爲めなり』と以て此書の價値を知るべし（金十五錢東京博文館）

▲新演藝（九月號）　偖に劇界の卓新に意を注ぎ創刊記に北に新工夫を凝らしつゝある此の雜誌にして本號より特に寫眞版に雅麗なる光澤アート紙を増加することゝなりて愈々清新味を増す至れり、脚本中の物さして帝女、小山内氏劇の本發表、新顏の劇評論俳優を生かす背景鬼と伯の芝居評、其他見たまゝ、雜感、優防劇評等何れも苦心してよく集めたるもの多し（四十錢東京芝公園九號地文社）

▲婦人之友　無駄（き生活號）十數頁に渉つて創刊『米の無駄』を初めとして三十人の實驗による五十餘種の廢物利用法、中伯、其の安價發達法其他時節柄必讀の、用的記事を滿載す、徳田秋聲松居松葉氏の長篇小説興味津々たり（二十三錢東京雜司ヶ谷婦人之友社）

▲講談倶樂部（九・號）　美八三郎對（仰天子）格子（西男）男・美代（奥劇）神指へ評傳、湖雀）納豆質（翠山）新小紅葉、紅綾）六號室（瓊花）宮尾小説機千島　紫水、神智、笛吹川（四郎）探偵小説暗殺婦人（快雨鬼人）源氏車（東太郎）落語我君の八様（家雀）浪花節神敗八戰、夢人等（四十錢東京本郷駒込曙町四八講談社）

▲主婦之友（内職及副業號）成功した内職と副業の經驗、内職副業の成功法等を初め手際よく出來るシミ抜き法、古メリンスを新しい枝染に利用する法、廢物利用でハイカラ頭込み入、手輕く珍らしい季節料理其他内職と副業に就いて有益な趣味の記事多く特に讀物として精醬小説希望の泉、小説七面鳥その他必要記事あり（二十錢東京神田表神保町二東京家政研究會）

▲乃木宗（二卷）乃木神社を初め口繪寫眞十數頁の外、修養論、國民道徳の基礎、出雲舊行の中朝事實、南海の神秘島、婦人の美談其他二十五錢大阪東區備後町一ノ七大阪乃木會）

▲婦人界（九月號）口繪蟲の音の外數頁の麗なる寫眞あり讀物として俊約は何から始めるか、人に知らせたき家事上の經驗遊び好きな夫と妻の態度調法に作つた私の薬所、肥らない兒の手當、簡便な子供洋服の拵へ方、手輕な初秋のお惣菜等、有益なる記事多し猶附録として料理の卷あり（二十錢東京有樂町一ノ京誌）

京城本町　千代田號印舗　電話八八七番

讀者の領分

▲本月十一日讀者の領分にて新生より十二歳の鮮人女子子守奉公に御希望せられ度き旨了承川會にしも希望なくんば當地方（小北鐵山）の鮮人金へ家に周旋すべし當欄にて御住所御知らせあれ（小泉生）▲京城の家主さん、川には十二月分の家賃は受取らず受領證を渡すとの事貸他は同先に相談するが如何です此の問題は借家人）▲京城亭は京城の名勝にして一日の清遊に供にするさところ、然るに近日ダイナマイトにて附近の岩石を崩壞しつゝあり遊覽者の京城亭の東南に當る所はあたら無惨に打壞され同日の面影を見る事を得ず借問す府の當局者は斯る破壞的行爲を公共的良なる事業として許可したるか（仙人）▲京城府で京館語を教授するところ御存知の方がありましたら何卒本紙上に御教示下さい（ケイ、エヌ生）▲常に本紙の讀者欄に出て居ます（保）▲十三日金曜の晩樂館に行つて座席を取り十錢を渡した残剰錢が無いで後から持ち去つたきり遂に帰へて来られた取扱を望む（一讀者）

MITSUWA QUINA-IRON WINE

being prepared from the best materials after thoroughly scientific investigation, is absolutely free from all defects will be found in general tonics. It contains two powerful specifics: Quina and Iron, which we may affirm it without exaggerations, are the most efficacious remedies for regaining energy to persons of weak constitution, inappetence, poverty of the blood, nervous diseases and general debilities in the organism. The wine is greatly nourishing to all people, without exception, whose mode of life, both physical and intellectual.

Mitsuwa Quina-Iron Wine is very delicious and agreeable to take and moreover, easy to be absorbed and assimilated.

Price ¥ 1.70

病者の食慾を催進して營養を佳良ならしめ治病の完璧を期し回春の喜を迎へしむべき滋養强壯料

◎ミツワ規那鐵葡萄酒

香味色佳良滋養力偉大

健胃補血興奮作用卓絶

本品は山梨縣宮崎葡萄酒醸造所監製の天然葡萄酒を基礎とし、純良有効なる規那並に鐵を特殊の操作を以て配合し、周到なる用意の下に精製せるものなるが故に、容易に變敗する憂ひなく、規那、鐵及葡萄酒の健胃、補血、强壯等總ての効力を遺憾なく發揮し、天然の佳香、美味を具へ、食慾缺乏、營養不良、慢性の發熱並にド衂、貧血、萎黄病、貧血より起る神經疾患に神經衰弱、ヒステリー、ヒポコンデリー、産後並に病後の衰弱一般の虚弱等に際して適用すべき無比の滋養的飲料なり

定價　一瓶金壹圓七拾錢　内地以外は運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

▼如斯人は滋養料◎ミツワ規那鐵葡萄酒を用ふべし▲

一、食餌の進まぬ病人
一、營養の衰へた病人
一、元氣の無い病人
一、貧血して居る病人
一、是と云ふ病は無くても何となく弱く感冒に罹り易い人
一、非常産後の營養を謀りたい人
一、病後の衰弱を早く回復したい人
一、色蒼く肉瘦せ虚弱なる人や胃腸の弱い人
一、貧しい人
一、腺病質にて常に倦怠を覚え動作の不活潑な人
一、睡眠に飽き痩せて咳嗽や痰の多い人
一、肺結核の既往性素質の人も多く出る所謂結核性素質の人
一、肺結核、肺尖加答兒、肋膜炎、其の他結核性の病などに永く苦しんで居る人
一、右の如き病で發熱の永く續いて居る人
一、下痢の永く續いて居る人
一、ヒステリー的に悶ふ血の道に侵されて居る人
一、ヒポコンデリー的に悶ふ心氣病に罹まされて居る人
一、發黄病など血液の病に罹て居る人

MITSUWA GINSENG WINE.

Mitsuwa Ginsing Wine, being rich in the nutritive properties which build up vitality and strength is very delightful to taste and also remarkably wholesome and nourishing to the weak and sick. By means of the exclusive method the fresh juice of the grape and the efficacious Ginseng are mixed in a well-balanced combination. Then it is assimilated completely and transformed, with the least possible tax on digestion, into the elements of active capacity and power. Mitsuwa Ginseng Wine is especially effective to be applied in the following cases: Energy decline and low spirits, Nervous bebility, Innutrition before and after delivery, Night spoil, Poor appetite, Indigestion, Poverty of Blood, Hysteria.

Price ¥ 1.80

健者の物質代謝を旺盛ならしめ疲勞を除き身體の强壯を圖り尙新活力を賦與し得べき

◎ミツワ人參葡萄酒

風味高潔淸和滋養豐富

元氣增進興奮作用優秀

本品は科學的研究を經て効力卓絶なる人參を、其の色は紫紅にして澄麗、其の香は芬にして爽、其の味は濃厚にして輕快、氣を增進せしめ、榮養の佳良並に身體の强壯を確實にする上に於いて他の物を以て代ふべからざる効果あり、の淸涼飲料を以て稱するも可なり。調密の操作に依り、芳醇無比の葡萄酒に配合したるものにして、精神の困憊並に筋骨の疲勞を除き、能く何人の嗜好にも順應し、元健者に新活力を賦與し、木品は隨時隨處飲用すべく、一度沸騰したる水或は諸種

定價　一瓶金壹圓八拾錢　内地以外は運賃を加ふ

（現品縮寫圖）

▼如斯人は强壯料◎ミツワ人參葡萄酒を用ふべし▲

一、元氣を盛んにしたい人
一、精神を爽快にしたい人
一、力を增したい人
一、身體を强壯にしたい人
一、元氣良く活動したい人
一、延年長壽を願ふ人
一、病苦や不快な感想を忘れたい人
一、精神や筋骨の疲勞を早く回復したい人
一、食事を進ませたい人
一、消化を良くしたい人
一、榮養を良くしたい人
一、精力が減り元氣の無い人
一、勉強又は勞働して疲れた人
一、生來虚弱な人
一、身體の瘦削けて居る人
一、貧血して居る人
一、顔の色蒼褪め艶の無い人
一、手足や腰腹が冷ゑて寢つかれぬ人
一、些細の事まで氣にかける人
一、悲しい事も無いのに泣きたい人
一、悲觀して厭世的になる人
一、精神が鬱々とする人
一、時々氣が尖ぶ人

懸賞募集規定

耐水調帶　定價表並に申込次第送呈

朝鮮總代理店 仁川本町四丁目 白神洋行　京城 南大門外 白神洋行支店　新田帶革

パラタ調帶

大三休德 百圓 進呈 吸北詰角 大阪有田ドラッグ商會

りん病 ばいどく 特効薬 合資 大 田一〇錢 金二円 百二円

淋病藥王樂は淋病劑として梅毒藥王樂は驅梅内服藥として醫學上最有效と確定し等にて調劑配劑せる高書籍の證がある保證す若し前述の證言に違へる事を發見せる時は百圓進呈

帝國醫科大學病院 分析料

◎あらゆる治療をあらゆる効かぬ患者に東京大阪名地にも南廣東迄にせ物あり

にせドラッグあり

大阪有田 取あ扱ひ 製を賣

京城南大門外停車場通 ドラッグ商會滿鮮本部（振替京城六二〇番・電話三五六番）

京城黄金町三丁目（全支店） 龍山漢江通前停留所（全支店） 釜山大廳町三丁目（全支店） 元山本町三丁目（全支店） 平壤櫻町十二番地（全支店） 仁川宮町二丁目（全支店）

◎朝鮮のにせ物　京城、龍山、仁川等各地ににせドラッグあり購着せられざる様御注意をこふ

請ふ藥舖並化粧品店販賣有許

全國到る所の都市朝鮮滿洲南清支那等に支店あり 京城龍山方各地に販賣店

東京日本橋通四 大阪心齋橋筋本町 有田ドラッグ本舗

共同汽船出帆

阿波共同汽船株式會社

共同丸　九月十八日午後入港 九月十九日正午出帆

大連直行（關東都督府命令船）

仁川代理店　本町四丁目　野口商會（電話二七三番）

元山代理店　南大門通　田口回漕店（電話二四八）

京城取次店　南大門　（電話二七六八）

釜山出帆廣告

◎元山、西湖、新浦、城津、淸津行
◎第三琴平丸　月日後四時出
◎門司、宇品、神戶、大阪行
◎天奈敦原博多行
眞佐丸　月日午後十時出

本町取扱店 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆

神戶、大阪行　代丸　九月十八日午後四時

下ノ關、大阪行

秀吉丸　月日後四時

鎮山、木浦、下ノ關、大阪行

君が代丸　九月十五日後四時

仁川海岸通二丁目（電話七九）高杉回漕店

大阪商船出帆

（仁川出帆）

神戶、大阪行（鎮南浦寄港）

信濃川丸　九月十七日正午

安東丸　九月二十日後四時

木浦、大阪行

信濃川丸　九月十六日正午

（元山出帆）

淸津行

宮島丸　九月十六日後十二時

釜山、門司、宇品、神戶、大阪行

高島丸　九月廿一日後九時

（大連出帆）

上海、基隆、打狗行

湖北丸　九月　日

北陸丸　九月廿八日後六時

内地各港出帆主要航路

歐洲行　一年四回

南米行　一年五回

濠洲行　毎月一回

北米行　毎月二回

御注意

切符發賣所　◎外國航路…

仁川代理店　大阪商船株式會社…（電話二二…）

京城　内國通運會社…

日本郵船出帆

大連、天津、牛莊行

相模丸　九月十日正午

酒田丸　九月廿七日

高砂丸　二十日

仁川海岸町　堀回漕店

朝鮮郵船出帆

天氣船橋に付ては（…）

敦賀行淸津經由…

平安丸　九月廿八日

越後丸　九月十九日

京城 基行 關門、釜山

北陸丸 九月廿一日

山陽丸　九月十七日

咸鏡丸　九月廿一日

元山雄基行

慶城丸　九月十九日

大阪行　神戶經由

平壤丸　九月十六日

木浦、濟州島行

長崎　長門丸

群山、木浦、濟州島行　九月十七日

全羅南北沿岸線

釜山木浦線

濟州島行

昌平丸　九月二十日

西鮮沿岸線

公州丸

大浦水線

釜山淸水線

多島海行

湖南丸

朝鮮郵船會社仁川出張所 仁川代理店

京城南大門通

京城代理店

其他各寄港地に代理店あり